

分 野	基礎分野	科目名	人間と環境
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～10 月

授業のねらい・目標

人間の生活や健康と環境とは深く関連しあっている。環境問題に関心を持ち、生態系や環境が人間に及ぼす影響を理解する。環境を考えることによって、生活を見直すことや生命のあり方を考える機会とする。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	人間の生活と 環境問題	日本における環境問題の歴史	講義（スライド）
2		科学・経済の発展と環境	
3		光化学スモッグ（大気汚染）	
4		酸性雨	
5		地球温暖化	
6		オゾン層破壊	
7		水質と土壌の汚染	
8		放射性物質による汚染	
9		エネルギーと環境	
10		ダイオキシンと環境ホルモン	
11	環境問題の 対策技術	自動車排ガスの浄化	講義（スライド）
12		脱硫と脱硝	
13		フロン類の規制と代替物質	
14		環境汚染物質の除去とリサイクル	
15		再生可能エネルギーとその利用	

【成績評価の方法】

レポート課題の提出 100 点

【テキスト・参考文献など】

参考文献 環境の汚染と対策（2018 年度改訂版） 富士川計吉 著 北海印刷（株）

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	心理学
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 6 月～11 月

授業のねらい目標：心理学が扱う領域は幅広いです。本講座では、「対人支援職に必要なこころの理解」を目標に、感覚・知覚・行動・発達・パーソナリティなど、心理学が探求してきたこころの基盤となっている要素を学びます。生涯発達心理学の講義では、人間が各年代で出会う様々な課題を理解し、「こころに寄り添うとは？こころのケアとは何か？」を考える手がかりとなることを期待します。また、心理学は皆さん自身の人生を豊かにするためにも役立つと実感してもらえよう授業を進めていきたいと思っています。

回		授業内容	方法
1	ストレスマネジメント	講座ガイダンス・心理学と医療の接点 ストレスマネジメント	講義
2	心理学の歴史と系譜①	感覚・知覚研究、実験心理学、ゲシュタルト心理学、 行動主義など	講義
3	心理学の歴史と系譜②	フロイトの精神分析・ユングの分析心理学	講義
4	パーソナリティー	人格心理学の視点・性格の分類	講義
5	生涯発達心理学Ⅰ	愛着の発達（乳幼児期）	講義
6	生涯発達心理学Ⅱ	社会性の発達・知能の発達（幼児期・学童期）	講義
7	生涯発達心理学Ⅲ	思春期・青年期の発達課題 子ども虐待	講義
8	レポート課題：DVD 視聴	「Stand by Me」を観て発達について考える	DVD 視聴
9	生涯発達心理学Ⅵ	親密な関係の形成（成人前期） 世代を育み伝える（成人後期）	講義
10	生涯発達心理学Ⅴ	中年期の危機 高齢者の発達課題・人生の物語	講義
11	非定型発達への理解と支援	神経発達症群：ASD と ADHD を中心に	講義
12	病気・死に向き合う心	高齢者に多い精神疾患 患者・遺族の心理とケア	講義
13	対人援助職が出会いやすい 精神疾患	気分障害（うつ・双極性障害）・統合失調症・せん妄・ 摂食障害など	講義
14	カウンセリング演習①	傾聴と受容	講義
15	カウンセリング演習② レポート課題：未定	やってみよう	講義

【成績評価の方法】 8 回目レポート 50 点、 15 回目レポート 50 点

【テキスト・参考文献など】

ベーシック心理学：医歯薬出版 他資料

分 野	基礎分野	科目名	文章表現法
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～7 月
授業のねらい・目標			
自己の考えを適切に表現する文章の書き方や文章読解能力を身につける。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	表現	話し言葉と書き言葉	講義 練習問題
2		正しい表現（語句の対応と並べ方）	講義 練習問題
3		簡潔で明確な表現（一文の長さ／誤解を生じない書き方）	講義 練習問題
4		句読点の打ち方 段落訳のしかた （文の構造を明確にする／文章の構成を考える）	講義 練習問題
5		原稿用紙の書き方	講義 練習問題
6	敬語法	尊敬語・謙譲語・丁寧語を用いた表現	講義 練習問題
7			
8	試験	筆記試験 45 分間	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【テキスト・参考文献など】

日本語表現研究会：「日本語表現法」（アイケイ・コーポレーション）

【受講者への要望、留意事項等】

テキスト 44 ページから 65 ページの「ことばの知識」は試験範囲としますので、各自しっかり学習しておくこと。

分 野	基礎分野	科目名	情報科学 I
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～10 月

授業のねらい・目標

1. ICT 活用のための基礎的能力を養う。

- 1) 情報化社会にある現在の個人情報の意味や課題などを学び、情報を取り扱う基本的マナーを理解する。
- 2) コンピューターの基本構成・動作を理解し、効果的伝達手段の活用方法を学ぶ。

授業計画

回	テーマ	授 業 内 容	授業方法
1	コンピューターの基礎知識	コンピューターの基礎知識	講義・演習
2	インターネット社会の ルールやマナーを身につける	情報管理、 ネットの特性、ネットコミュニケーションのあり方	講義・演習
3		他者理解と自己理解	講義・演習
4			
5		情報モラルやマナー・インターネットトラブルについて	講義・演習
6	Word の使い方	Windows の基本的な操作方法、ファイル生理の方法	講義・演習
7		Word 文書の作成方法	講義・演習
8		表の作成・文書の編集	講義・演習
9		画像や数式などの機能の使用方法など	講義・演習
10	文書作成のマナー	レポートの書き方	講義・演習
11		メールの書き方	講義・演習
12	プレゼンテーション方法	PowerPoint 作成方法(1)	講義・演習
13		PowerPoint 作成方法(2)	講義・演習
14		PowerPoint 作成方法(3)	講義・演習
15		効果的なプレゼンテーション	講義・演習

【成績評価の方法】

課題レポート100点

【テキスト・参考文献など】 資料

【受講者へ要望、留意事項等】

パソコンを持参すること *無線 LAN(Wi-Fi)接続できるもの

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	地域と文化
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～6 月
授業のねらい・目標			
自分たちが生活する地域社会の歴史や文化を知り、人間や社会に対する理解を深める。			

授業計画

回	授業内容	授業方法
1	北海道の地域と文化（1）	講義
2	北海道の地域と文化（2）	講義
3	西胆振地域の特色（1）	講義
4	西胆振地域の特色（2）	講義
5	「噴火湾の鯨類」噴火湾の特徴と、鯨類 －噴火湾の特徴、鯨の生態、噴火湾への来遊種と目的－	講義
6	「噴火湾岸における鯨と人の関係性」 －鯨を神格化したアイヌ文化、捕鯨時代、捕鯨禁止から現代へ－	講義
7	「変わりゆく噴火湾」 －鯨類を取り巻く現状から、海洋環境が抱える問題、課題を俯瞰する－	講義
8	「噴火湾で生きる私たち」 －鯨類が来遊する噴火湾を未来に残すために、出来ること、すべきこと－	講義 (45 分)

【成績評価の方法】 1～4 レポート 50 点、 5～8 レポート 50 点

1～4 レポート内容：あなたの町の魅力についてレポートしなさい。

5～8 レポート内容：講義内で指示する。

【テキスト・参考文献など】

資料

【受講者へ要望、留意事項等】

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	コミュニケーション基礎
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～6 月

授業のねらい・目標

人間同士のコミュニケーションを円滑に進めるための基礎となる知識を理解する。

社会人として必要な挨拶、報告の仕方、態度を身につける意義を理解し関心を持つことができる。

看護学校では臨地実習での学習が重要です。実習に臨むにあたって挨拶や身だしなみを整え、忘れ物等がないよう準備できるようになることが必要である。これからの学校生活や学習に役立てられることを期待する。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	コミュニケーションとは	1. アイスブレイク 2. アンケートから 3. コミュニケーションの基本 4. パーソナルスペース	講義・演習
2	仲間を知る	1. 相手を知るために 2. インタビュー 3. 他己紹介	講義・演習
3	より良いコミュニケーション	1. ミスコミュニケーション 2. ミスコミュニケーションを防ぐには	講義・演習
4	対人関係を良好にするためのマナーと対応	1.看護学生・社会人としての接遇 2.言葉遣い	講義・演習
5		1. 身だしなみ、挨拶 2. 適切な態度について考える 3. 次回のオリエンテーション	講義・演習
6	基礎看護学実習へ向けて	1. カンファレンスについて 2. グループダイナミクス 3. 模擬カンファレンス	講義・演習
7	まとめ	1. 2 年生からの説明・実演を見学 2. 意見交換 3. それぞれの学びの発表	講義・演習 3 階ホール (筆記用具準備)
8	試験	レポート課題 筆記試験(45 分間)	

【成績評価の方法】

提出レポート(20 点) 演習参加状況(10 点) 筆記試験(70 点) 計100点

【テキスト・参考文献など】

① 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 ②資料配布

【受講者へ要望、留意事項等】

演習が中心の科目ですので、メンバーとよく協力して積極的に取り組んで下さい。

分 野	基礎分野	科目名	運動の科学
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～7 月
授業のねらい・目標			
健康づくりと運動についての基礎を学び、運動とメンタルヘルス、運動習慣の形成、健康維持・増進のための運動について学ぶ			

授業計画

回	テーマ	授 業 内 容	授業方法
1	運動の基礎	講義：生体の機能について 実技：バランスボール（体力づくり・ストレッチ）	講義・実習
2	運動とメンタルヘルス	講義：運動と栄養について 実技：有酸素運動 軽度の運動	講義・実習
3		講義：運動と栄養について 実技：球技系運動 その1	講義・実習
4		講義：呼吸・循環器について 実技：球技系運動 その2	講義・実習
5		講義：筋・骨・神経系について 実技：球技系運動 その3	講義・実習
6		講義：メンタルヘルスについて 実技：有酸素運動 ウォーキング等	講義・実習
7	健康の維持・増進	講義：運動処方・疲労回復法 実技：スポーツマッサージ	講義・実習
8	筆記試験(45分)		

【成績評価の方法】 100 点 （筆記試験 50 点 ・ 出席点 50 点）

【テキスト・参考文献など】 テキストは用いない。必要時資料配布

【受講者へ要望、留意事項等】

屋外・屋内シューズを準備する（体育館は土足厳禁である）。授業前日はしっかり睡眠をとるように。服装は運動にふさわしいもの（ジャージ）を用意する。基礎的な体力を養成するため柔軟性・筋力を日常生活の中で身につけるようにする。

分 野	基礎分野	科目名	音楽
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 5 月～10 月
授業のねらい・目標			
音楽に親しむことによって、表現力を養い感性を豊かにする。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1～5	音楽の基礎知識 音楽鑑賞	音楽療法 音域と声域 音符と記号 歌の種類・声の分類 音楽史に沿った音楽鑑賞	講義 リズム訓練 音楽鑑賞
6～10	声のメカニズムについて	声帯と発声 リズムとハーモニー イマジネーションとクリエーション	講義 音楽鑑賞
11～14	音楽の活用法	音楽の種類（形式） 老人保健施設のクリスマス会に参加等	講義 演習
15		筆記試験 45 分間	

*一回 45 分

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

声楽教本 教育芸術社

【受講者へ要望、留意事項等】

音楽の基礎知識やマナーを修得できるよう積極的に授業に参加して下さい。

分 野	基礎分野	科目名	英語
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 9 月～翌 2 月
授業のねらい・目標 看護の場面で用いられる様々な表現を習得する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	Introduction	本授業の内容説明と導入	演習
2	外来の英会話	Is this your first visit here?	演習
3	主訴や現病歴の 尋ね方	What brings you here today?	演習
4	既往症の尋ね方	Have you ever had any major illnesses before?	演習
5	既 往 歴、家 族 歴、社会歴	Have you ever had a blood transfusion? May I ask what your occupation is?	演習
6	症状の英語表現	My eye hurts.	演習
7	検査の英語	We're going to take a urine test.	演習
8	身体診察の英語	Let's take a look.	演習
9	入院・お見舞い・ 点滴の英語	give an IV、get hospitalized	演習
10	臓器名の英語	cerebrum、pharynx、pancreas	演習
11	技師、療法士、 訓練士	CT、PT、OT、ORT、ST	演習
12	病院の科名	Internal medicine、surgery、pediatrics etc.	演習
13	ナースコール	Please ring the bell if you have any troubles.	演習
14	介助の英語表現	Let's turn your body over so you don't get bedsores.	演習
15		試験	

【成績評価の方法】

筆記試験70点、レポート点30点

【テキスト・参考文献など】

授業時に配布するプリント

【受講者へ要望、留意事項等】 授業時に集中して、英語表現を身につけて下さい。

分 野	専門基礎分野	科目名	解剖生理学 I
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～7 月
授業のねらい・目標			
ヒトの身体の構造を理解する。主要器官系統の構造と役割を理解する。			
ヒトの身体の生理機能、調節の仕組みを理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	解剖生理総論	細胞と組織、皮膚と膜について	講義
2	血液系	構造と働き①	講義
3		構造と働き②	講義
4	内分泌系	構造と働き①	講義
5		構造と働き②	講義
6	免疫系	構造と働き①	講義
7		構造と働き②	講義
8	感覚系	構造と働き	講義
9	循環系	構造と働き①	講義
10		構造と働き②	
11		構造と働き③	
12	呼吸系	構造と働き①	講義
13		構造と働き②	講義
14		構造と働き③	講義
15	試験	筆記試験	

【成績評価の方法】筆記試験 100 点満点 90 分間

【テキスト・参考文献など】

メディカ出版 解剖生理学①

【受講者へ要望、留意事項等】

予習・復習をしっかりとってください。

分 野	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅱ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 5 月～9 月
授業のねらい・目標			
ヒトの身体の構造を理解する。主要器官系統の構造と役割を理解する。			
ヒトの身体の生理機能、調節の仕組みを理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	脳神経系	構造と働き①	講義
2		構造と働き②	講義
3		構造と働き③	講義
4	消化器系	構造と働き①	講義
5		構造と働き②	講義
6		構造と働き③	講義
7		構造と働き④	講義
8		構造と働き⑤	講義
9	泌尿器系・生殖系[男性]	構造と働き①	講義
10		構造と働き②	講義
11		構造と働き③	講義
12	生殖系[女性]	構造と働き④	講義
13	骨筋系	構造と働き①	講義
14		構造と働き②	講義
15		筆記試験 (90 分間)	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点満点 90 分間

【テキスト・参考文献など】

メディカ出版 解剖生理学

【受講者へ要望、留意事項等】

予習・復習をしっかりとください。

分 野	専門基礎	科目名	解剖生理学演習
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 12 月～翌 3 月
授業のねらい・目標			
解剖生理学の知識を活かし、各器官が生命維持のためにどのように働いているのか説明することができる。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	動くためのからだのしくみ	「動く」に関連した基礎的知識 骨格・筋系の理解	個人学習①
2	動くためのからだのしくみ	「動く」に関連した基礎的知識 骨格・筋系の理解	個人学習② ミニテスト
3	動くためのからだのしくみ	身体を支える・動かすしくみ	グループワーク
4	動くためのからだのしくみ	身体を支える・動かすしくみ	発表 ミニテスト
5	動くためのからだのしくみ	「動く」と日常生活での基本的動き	グループワーク
6	動くためのからだのしくみ	「動く」と日常生活での基本的動き	グループワーク
7	動くためのからだのしくみ	「動く」と日常生活での基本的動き	グループワーク
8	食べるから排泄までのからだのしくみ	「嚥下」のしくみについて考える	個人学習課題①
9	食べるから排泄までのからだのしくみ	「嚥下」のしくみを理解する	グループワーク 講義 個人学習課題提出①
10	食べるから排泄までのからだのしくみ	「食べ物がどのように消化吸収されるか」について考える	個人学習課題②
11	食べるから排泄までのからだのしくみ	「食べ物がどのように消化吸収されるか」について考える	グループワーク 講義 個人学習課題提出②
12	食べるから排泄までのからだのしくみ	「食べ物がどのようにしょうかきゅうされるか」を理解する	講義・ミニテスト
13	食べるから排泄までのからだのしくみ	「尿や便ができるしくみ」について考える「排尿や畜尿、排便のしくみ」について考える	個人学習課題③
14	食べるから排泄までのからだのしくみ	「尿や便ができるしくみ」を理解する 「排尿や畜尿、排便のしくみ」を理解する	グループワーク 講義 個人学習課題提出③ 久保
15		筆記試験	テスト

【成績評価の方法】筆記試験 30 点+個人学習課題①～③（各 5 点）+ミニテスト 5 点
欠課 1 時間につき 1 点減点とする。

【テキスト・参考文献など】

解剖生理学：メディカ出版

看護形態機能学～生活行動からみるからだ：日本看護協会出版会

【受講者へ要望、留意事項など】

各自が積極的に学習にとりこんでください。

分 野	専門基礎分野	科目名	生化学
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月~10 月
授業のねらい・目標			
生体内における物質の化学変化、代謝、生体エネルギーの生命現象を理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	第 1 章 生体の成り立ちと生体分子	イントロダクション 生体の成り立ち	講義
2	第 2 章 タンパク質の性質	タンパク質	講義
3	第 3 章 酵素の働きと性質	酵素	講義
4	第 4 章 糖質の代謝	糖	講義
5		糖質	講義
6	第 5 章 脂質の代謝	脂質	講義
7	第 6 章 アミノ酸・タンパク質	代謝	講義
8	第 8 章 体液	体液	講義
9	第 9 章 ホルモン	ホルモン	講義
10	第 10 章 ビタミン	ビタミン	講義
11	第11章 内部環境の恒常性 第12章 消化・吸収	ホメオスターシス 消化・吸収 栄養	講義
12	第 13 章 血液	血液	講義
13	第 14 章 尿	尿	講義
14	第 15 章 免疫	免疫	講義
15	試験	筆記試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

系統看護学講座専門基礎分野人体の構造と機能②生化学 医学書院

【受講者へ要望、留意事項等】

分 野	専門基礎分野	科目名	病理学
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1年生 4 月～10 月
授業のねらい・目標 病因、病変の特徴、病態生理を理解する。			

回	テーマ		授業方法・備考
1	病理学 総論	医学と病理学 細胞、組織の傷害と修復	講義
2		炎症と免疫 (第 4 章)	講義
3		循環障害 (第 3 章)	講義
4		代謝障害 (第 6 章)、老化と死 (第 7 章)	講義
5		感染症 (第 5 章)	講義
6		先天異常と遺伝子異常 (第 8 章)	講義
7		腫瘍	講義
8		腫瘍	講義
9		腫瘍	講義
10	病理学 各論	循環器系、血液・造血器系の疾患	講義
11		呼吸器系の疾患、腎・泌尿器・生殖器系・乳腺の疾患	講義
12		消化器系の疾患	講義
13		内分泌系、骨・関節系、目、耳、皮膚の疾患	講義
14		脳・神経・筋肉系の疾患	講義
15		試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

<医学書院> 疾病の成り立ちと回復の促進 1 病理学

分 野	専門基礎分野	科目名	微生物学
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 7 月～12 月
授業のねらい・目標			
微生物および病原微生物と病因との関係を理解し、疾病の予防・伝播防止に応用する			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	1.微生物・医動物とは	微生物・医動物とは、covid-19 について	講義
2	2.宿主の臓器・組織別に みる感染症と病原体	呼吸器感染症、結核	
3		消化器系感染症・肝炎	
4		尿路感染症、性感染症	
5		皮膚・粘膜の感染症、皮膚に発疹が出現するウィルス感染症とリケッチア感染症、脳・神経系感染症	
6	3.宿主の因子が影響する 感染症と病原体	人獣共通感染症、寄生虫感染症	
7		小児の感染症、母子感染	
8		高齢者の感染症	
9		日和見感染症、移植患者と感染症	
10		手術創・外傷と感染症、 血管内カテーテル関連血流感染症	
11		薬剤耐性菌	
12	4.感染症の分類と感染制御機構	感染症と臨床微生物・医動物、感染防御機構の基礎	
13	5.感染・発症予防	ワクチン接種と血性療法、滅菌と消毒	
14	6.感染症の検査・治療	感染症検査と臨床微生物・医動物	
15		筆記試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点 60 分間

【テキスト・参考文献など】

ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物 メディカ出版

【受講者へ要望、留意事項等】

予習・復習をしっかりとってください。

分 野	専門基礎分野	科目名	疾病論 I
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 6 月～12 月
授業のねらい・目標			
消化器系、血液・リンパ系、神経系、感覚器系(皮膚)の主な疾患の病態生理、検査、治療理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	脳・神経の疾患	脳・神経の構造と機能 脳・神経系の循環障害	講義
2		変性疾患	講義
3		感染症 その他	講義
4	血液・造血器他の疾患	血液・造血器の疾患	講義
5		血液・造血器の疾患と検査	講義
6		アレルギー 膠原病 (免疫のしくみ)	講義
7		膠原病	講義
8	感覚器系(皮膚)	皮膚科疾患①	講義
9		皮膚科疾患②	講義
10	消化器の疾患	消化器疾患1 一食道・胃疾患	講義
11		消化器疾患2 一 大腸ポリープ・腫瘍	講義
12		消化器疾患3 一 腸・腹膜疾患	講義
13		消化器疾患4 一 胆道・すい臓疾患	講義
14		消化器疾患5 一 肝臓疾患	講義
15		試験(90 分間)	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

医学書院 病理学 疾病の成り立ちと回復①

成人看護学【4】血液・造血器、成人看護学【11】アレルギー・膠原病・感染症

成人看護学【12】皮膚

成人看護学【5】消化器

分 野	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅱ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 6 月～11 月
授業のねらい・目標			
呼吸器系、運動器系、感覚器系(眼・耳鼻咽喉)の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	感覚器系(眼)	解剖 検査 眼科疾患その1	講義
2		眼科疾患 その2	講義
3		眼科疾患 その3	講義
4	呼吸器系	呼吸器の解剖と生理 検査	講義
5		呼吸器の感染症 ①	講義
6		呼吸器の感染症 ②	講義
7		結核 間質性肺炎他	講義
8		気管支喘息 COPD 肺がん 気胸	講義
9	運動器系	整形外科総論 疾患、診断について	講義
10		整形外科各論 ①	講義
11		整形外科各論 ②	講義
12	感覚器系(耳鼻咽喉)	鼻の解剖と疾患	講義
13		耳の解剖と疾患	講義
14		喉の解剖と疾患	講義
15	試験	試験(90 分間)	

【成績評価の方法】 筆記試験 100 点 (時間内 90 分間)

【テキスト・参考文献など】

医学書院 成人看護学[13]眼 呼吸器系:成人看護学[2]呼吸器
成人看護学[10]運動器 成人看護学[14]耳鼻咽喉

分 野	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅲ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 7 月～11 月
授業のねらい・目標 循環器系、腎泌尿器系、内分泌系の主な疾患の病態生理と症状、検査、治療を理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	循環器系	循環器の構造と機能 症状とその病態生理 検査と治療処置	講義
2			講義
3		疾患の理解	講義
4		心不全	講義
5		不整脈	講義
6		弁膜症 心膜症	講義
7		心筋疾患 肺性心 先天性疾患 動脈系疾患 静脈系疾患 リンパ系疾患	講義
8	腎泌尿器系	腎・泌尿器の解剖 症状と病態生理	講義
9		UTI STD 腎不全	講義
10		前立腺肥大症 膀胱がん 尿路結石 腫瘍	講義
11	内分泌系	内分泌・代謝器官の構造と機能、症状とその病態生理、検査	講義
12		内分泌疾患	講義
13		糖尿病	講義
14		高脂血症 高尿酸血症 メタボリックシンドローム	講義
15	試験	筆記試験(90 分間)	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点 (時間 90 分間)

【テキスト・参考文献など】

医学書院 成人看護学[3]循環器

成人看護学[8]腎泌尿器

成人看護学[6]内分泌・代謝

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	看護学概論
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～7 月

<授業の目的・目標>

目的：看護とは何か、その専門性は何かを考え、専門職としての機能・役割を学ぶ。

目標：①基盤となる看護の基本的概念である「環境」「健康」「人間」「看護」について理解する。

②様々な視点から、看護観を持つ意義を理解する。

③看護の歴史や看護教育制度を学び、看護職の責務や役割を理解する。

④地域住民の生命や生活を守る支援を理解する。

⑤保健・医療・福祉チームにおける看護の役割と課題を理解する。

<授業計画>

1	看護学とは	授業概要の説明 プロフィール 看護とは 健康とは 看護師の定義など	講義
2	ナイチンゲールの看護 看護覚え書①	ナイチンゲールの看護の歴史 「看護」を考える基盤 「看護覚え書」の序章 「看護覚え書」のグループワーク	講義
3	看護覚え書②	「看護覚え書」のグループワーク(発表準備)	演習
4	看護覚え書③	「看護覚え書」のグループワーク(発表準備)	講義
5	看護覚え書④	「看護覚え書」のグループ発表	講義
6	看護覚え書⑤	「看護覚え書」のグループ発表	講義
7	看護覚え書⑥	「看護覚え書」のグループ発表 まとめ、看護の4つの概念	講義
8	ヘンダーソンの看護	ヘンダーソンの看護理論 「看護の基本となるもの」	講義
9	看護理論家の定義	看護理論家の看護の定義と看護概念 (オレム、ロイ、ペプロー、トラベルビーなど)	講義
10	看護の対象理解	「人間のこころとからだ」 ストレスの影響(事例検討)	講義
11	看護の対象理解	こころの理解に役立つ理論 マズロー、フィンク、キューブラー・ロス	講義
12	日本と世界の看護の歴史	日本の看護の歴史、欧米の看護の発展	講義
13	保健医療の場と看護	看護の継続性と情報共有 看護の提供のしくみ 国民の健康と生活	講義
14	まとめ	保健師助産師看護師法 全体のまとめ	講義
15	試験	筆記試験	

【テキスト・参考文献など】

1. 教科書：看護学概論 医学書院
2. F. ナイチンゲール「看護覚え書」第8版 現代社
3. V. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会

【成績評価の方法】

1. 筆記試験とレポート点の合計で100点とする。
2. 筆記試験・レポートについての詳細は、授業で知らせる。
3. 授業では、適時、確認テストをするため復習をして臨むこと。

【履修上の留意点】

看護学概論は、各看護学につながる看護の本質を学びます。初めて聞く言葉も多いため、復習を大切にします。そのため、ノートや配布した資料は必ず持参してください。

分野	基礎 専門基礎 専門	科目名	看護と倫理
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 10 月～12 月

＜授業の目的・目標＞

看護は人間の生命に直結する職業であるとともに、胎児から高齢者まであらゆる発達段階、健康レベルにある人々を対象とする職業である。看護の対象となる人々のうち、他者の支援なくしては日常生活を送れない。医療技術なくしては生命の維持すらできないといった状況にある人々も多い。そのため、看護職の有り様は、その人々の生活の質のみならず生命そのものに多大なる影響をもたらす。看護職には、高い倫理観が求められる。そのため、本授業を契機に日々の生活の中でも意識し、学生生活全体を通して看護職としての倫理観につながる基礎的能力を培っていただきたい。

目的：看護師として倫理的に判断し行動するための基礎的な知識・技術・態度を理解する。

目標：①看護における倫理について、基本的知識を理解する

・基本的人権の擁護、倫理原則、看護倫理における看護師の役割など

②「看護者の倫理綱領」を基に、倫理的葛藤と対応について理解する

③生命の尊さを考えると共に看護職の専門性を考える

④看護専門職者としての態度を習得する重要性を理解する

⑤社会の規範に則って、発見した誤りを見過ごすことなく指摘する

⑥誰に対しても冷静・平等・公平に接する

⑦誰に対しても自らの意見を勇気をもって主張する

⑧他者が不利益を被る発言を慎む

⑨自分が判断し行動した結果を他者に帰することなく引き受ける

⑩自分が関わって生じた問題の存在を認め、必要に応じて謝罪する

⑪他者の意見に左右されることなく事実に基づいて正當に評価する

⑫他者のプライバシーを保護する

＜授業計画＞

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	倫理とは	倫理学の基本的な考え方、生命倫理	講義
2	看護倫理	看護倫理とは	講義
3	専門職の倫理	看護職の倫理綱領、保健師助産師看護師法と倫理	講義
4	倫理的問題へのアプローチ①	倫理的問題の特徴とアプローチ法	講義
5	倫理的問題へのアプローチ②	対象の意思決定への支援 「がん治療における治療法選択への関わり—放射線療法に焦点を当てて—」	講義 (がん放射線療法看護認定看護師)
6	倫理的問題へのアプローチ③	倫理的問題の事例分析	講義
7	看護研究と倫理、まとめ	看護職と研究倫理、研究における倫理的配慮 全体のまとめ	講義
	試験	筆記試験(45 分間)	

【テキスト・参考文献など】

1. 系統看護学講座 別巻 看護倫理 第2版【電子版】医学書院 2024.
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論【電子版】医学書院 2024.

【成績評価の方法】

1. 筆記試験・レポート点の合計で100点とする。
2. 筆記試験・レポートについての詳細は、授業で知らせる。

【履修上の留意点】

- ・看護倫理は、各看護学につながる看護の本質を学ぶ。また、初めて聞く言葉も多いため、復習を大切にし、ノートや配布した資料は必ず持参してほしい。
- ・第5回倫理的問題へのアプローチ②について、がん放射線療法看護認定看護師が講義を行う。

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	看護共通技術 1 単位 30 時間
		単位・時間数	単元「活動・休息援助技術(移動・移送・体位)」 22 時間 単元「感染予防」 8 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～7 月

授業のねらい・目標

1. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解できる。
2. ボディメカニクスを活用し、最小のエネルギー消費で安全・安楽に体位変換を行う方法を習得できる。
3. 移送用具の基本的操作を理解し、安全・安楽に移動・移送する方法を習得できる。
4. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠障害を持つ患者への援助を学ぶことができる。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	基本的活動の 基礎知識	1) 講義の進め方について 2) 姿勢 3) 身体不活動による影響とその予防 4) ボディメカニクス 5) 関節可動域訓練・筋力強化訓練	講義 課題
2	基本的活動の援助の 実際	1) 体位変換 ・水平移動(一人・二人の場合) ・仰臥位→側臥位・側臥位→仰臥位	講義 校内演習
3	基本的活動の援助の 実際	1) 前回の復習 2) 体位変換 仰臥位→長坐位→端坐位→立位→端坐位→長坐位→仰臥位 ・上方への移動(一人・二人の場合)・ファール一位	校内演習 小テスト①
4	基本的活動の援助の 実際 技術チェック I	技術チェック①(手順を見ないで実施、評価) ・仰臥位→側臥位→仰臥位→元に戻る ・仰臥位→長坐位→端坐位→立位→元に戻る ・立位の援助	校内演習 振り返り①
5	体位保持ポジショニング(援助の基礎知識、 援助の実際)	1) 体位変換・体位の保持、移動による身体への影響 2) 安楽な姿勢と良肢位の保持(ポジショニング) 3) 側臥位から腹臥位ほか 4) 姿勢・体位を保持する物品と補助用具を使用	校内演習
6	基本的活動の援助の 実際	1) 歩行の援助 2) 車椅子の基礎知識、留意事項 3) 車椅子で患者を移乗・移送する (立位保持可能な場合、立位保持困難な場合) 4) 仰臥位→立位→車椅子移乗・移送→仰臥位	校内演習 小テスト②
7	基本的活動の援助の 実際	1) ストレッチャー移送の基礎知識、留意事項 2) ストレッチャーで患者を移送する 3) 車いすでの段差移動、エレベータの乗降	校内演習 小テスト③
8	基本的活動の援助の 実際	1) 車いすでの段差移動、エレベータの乗降 2) ストレッチャーで患者を移送する 3) 国家試験問題	校内演習 小テスト④
9	基本的活動の援助の 実際	1) 技術チェック②(手順を見ないで実施、評価) ・車いす移乗、移送 2) 技術試験について	校内演習 振り返り②
10	安全・安楽の援助 睡眠と休息(45 分間)	睡眠の基礎知識と援助	講義 個人ワーク
11	技術試験(90 分)	技術試験(ベッドから車椅子への移乗と車椅子での移送)	技術試験

12	手指衛生	手指衛生の方法	講義・演習
13	感染予防Ⅰ	感染予防の意義と原則	講義
14	滅菌と消毒Ⅰ	滅菌と消毒に関する看護の意義	講義
15	滅菌と消毒Ⅱ	滅菌用品の取り扱いと無菌操作	講義・演習
16	筆記試験(45分)	筆記試験(移動と移送)(感染)	筆記試験

【成績評価の方法】

1.技術試験(移動と移送)100点のうち2割(60点以上でかつ必須項目がすべて出来て合格とする)

2.筆記試験

1)「移動と移送の講義」30点

2)「感染管理講義」30点

3)「移動と移送の講義」小テスト(講義内で実施)4回×5点=20点

(1)各小テストにつき、合格するまで(満点をとるまで)受けることができる。満点が取れれば5点とする。(小テストの再試験は講義時間外になる)ただし、期限は移動移送の講義10回目が終了する日の17時まで。

(2)期限までに満点が取れない、途中で小テストを受けることをやめた場合は該当の小テストは0点とする。

(3)提出物

提出期限に遅れた場合は原則、筆記試験から1点減点する。急な体調不良や予定が入って休む場合もあるため、余裕をもって提出できるように計画的にとりくむこと。

(4)身だしなみ

演習時に整っていない場合、原則1講義につき筆記試験から1点減点とする。

(基本的には身だしなみチェックリストに準ずる)

【テキスト・参考文献など】

系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)

【留意事項】

校内演習は、原則動きやすい服装でよい(必要時そのつど指示する)。

講義資料、テキストなど講義に参加するために必要な準備をして臨むこと。

講義内でテキスト内にあるQRコードで動画を各自で視聴します。

* 実務経験のある教員などによる授業科目である。

2026 年度 日鋼記念看護学校 22

分野	専門分野	科目名	看護コミュニケーション技術
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 7 月～ 10 月
授業のねらい・目標			
看護におけるコミュニケーションの意義と効果的なコミュニケーション技法を身につける			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	看護コミュニケーションの意義	看護・医療におけるコミュニケーション	講義
2	コミュニケーションスキル	1)3 つのタイプ 2)アサーティブなコミュニケーション 3)アサーティブコミュニケーションの実際	講義
3	傾聴:心に寄り添う技術	1)傾聴とは 2)聴く技術	講義
4		傾聴の実際	演習
5	自己を知る方法①	プロセスセスレコードとは プロセスレコードの実際	講義
6	自己を知る方法②	アンガーマネジメントとは	講義
7	コミュニケーション障害への対応	コミュニケーションに障害のある人の対応について	講義
8	報告	報告とは 看護における報告	講義
9		正確な情報伝達方法	演習
10	情報収集の技術	情報収集とは	講義
11	面接の技術	面接の基本	講義
12		入院時面接の実際	演習
13	説明の技術	看護における説明	講義
14		説明場面の実際	演習
15	試験	90 分	

【成績評価の方法】

筆記試験 80 点 課題レポート 20 点

【テキスト・参考文献など】

系統看護学講座 医学書院 基礎看護技術 I

【受講者へ要望、留意事項等】準備性、協調性の向上を意識しましょう。

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	フィジカルアセスメント技術
		単位・時間数	2単位 45 時間
		開講学年・時期	1 年生 6 月～12 月
授業のねらい・目標 ・フィジカルアセスメントの基本的技法について理解する。 ・対象を把握するための情報収集と観察・測定 of 技法を身につける。 ・看護における記録・報告の意義と方法を理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	情報収集と観察	情報収集、観察の目的と方法・バイタルサインの意義	講義
2	身体各部の測定	測定の目的、実際(身長・体重・腹囲・握力・BMI)	学内演習
3	バイタルサイン	呼吸の仕組み、経皮的動脈血酸素飽和度の測定方法	講義 確認テスト
4	バイタルサイン	体温の仕組み、測定方法	講義 確認テスト
5	バイタルサイン	脈拍の仕組み、測定方法	講義 確認テスト
6	バイタルサイン	血圧の仕組み、測定方法	講義 確認テスト
7	バイタルサイン	観察の実際～体温・脈拍・呼吸、経皮的酸素飽和度	学内演習
8	バイタルサイン	観察の実際～血圧測定(触診法)	学内演習
9	バイタルサイン	観察の実際～血圧測定(聴診法)	学内演習
10	バイタルサイン	観察の実際～血圧測定(アネロイド式、電子、下肢)	学内演習
11	バイタルサイン	血圧測定技術チェック、触診法、聴診法	技術チェック
12	バイタルサイン	血圧測定技術チェック、触診法、聴診法	技術チェック
13	バイタルサイン	血圧測定技術チェック、触診法、聴診法	技術チェック
14	バイタルサイン	観察の実際～体温・脈拍・呼吸・血圧測定	学内演習
15	バイタルサイン	観察の実際～体温・脈拍・呼吸・血圧測定	学内演習
16	バイタルサイン	技術試験	技術試験
17			
18	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント(視診・聴診・触診・打診) 消化器系・呼吸・循環のフィジカルアセスメント	講義・学内演習
19	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの実際 バイタルサイン測定を通してアセスメントする(個人)	学内演習
20	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの実際 バイタルサイン測定を通してアセスメントする(グループ)	学内演習
21	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの実際 バイタルサイン測定を通してアセスメントする(グループ)	学内演習
22	記録	記録	講義
23		筆記試験(45 分)	筆記試験

【成績評価の方法】

技術試験(50 点)、筆記試験(〇〇先生 40 点 ・他講師 10 点)

筆記試験 〇〇先生 40 点の内訳(筆記試験 20 点、小テスト 20 点)

＜小テストについて＞

各小テストにつき、3 回まで受けることができる。満点が取れれば 5 点とする。

(期限は講義 21 回目が終了する日の 17 時まで)

満点が取れない、途中で小テストを受けることをやめた場合は該当の小テストは 0 点とする

＜身だしなみについて＞

身だしなみが整っていない場合は、1 講義につき筆記試験から－1 点とする。(身だしなみチェックリストに順ずる)

＜提出物＞

提出が遅れた場合は原則、1 回につき筆記試験から－1 点とする。

【テキスト・参考文献など】

系統看護学講座 基礎看護技術 I (医学書院)、看護のためのフィジカルアセスメント、その他資料

【受講者への要望、留意事項等】

校内演習はユニフォームを着用し身だしなみを整える。時計(秒針付き)、聴診器、ユニフォームのポケットに入るサイズのメモ帳を準備する。

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	生活援助技術Ⅰ（生活環境）
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 4 月～7 月
授業のねらい・目標			
1. 生活環境や病床環境を整える援助の必要性を理解し、安全で安楽な環境調整の方法を身につける。			
2. 人間にとっての衣生活の意義を 理解し、衣生活の援助技術を身につける。			

生活環境調整 授業計画

回	テーマ	授 業 内 容	授業方法・備考
	特別講義 実習室の使い方	1. ベッドの使い方 2. リネン類のたたみ方 3. シーツのさばきかた	デモンストレーション 演習・看護実習室
1	生活環境	1. 環境とは 2. 病室内環境 3. 病棟と病室の設備 4. 生活環境の援助	講義・教室
2	ベッドメイキングの方法	ベッドメイキングの手順・方法・留意事項	演習・看護実習室
3	技術演習	ベッドメイキング 演習	演習・看護実習室
4	技術演習	ベッドメイキング 演習	演習・看護実習室
5	技術チェック	オープンベッドの作成 技術確認	演習・看護実習室
6	臥床患者の リネン交換の方法	1. リネン交換 ビデオ視聴 2. リネン交換の手順・方法・留意事項	演習・看護実習室
7	技術演習	リネン交換 演習	演習・看護実習室
8	技術演習	リネン交換 演習	演習・看護実習室
9	環境整備	生活環境を整える(45 分)	演習(GW)
10	技術試験	臥床患者のリネン交換	試験・看護実習室

衣生活 授業計画

回	テーマ	授 業 内 容	授業方法・備考
1	衣生活の意義	衣服を用いることの意義 衣服・病衣の適切な選び方 病衣・寝衣の交換	講義・教室
2	臥床患者の寝衣交換	寝衣交換の実際	講義・DVD・演習
3	臥床患者の寝衣交換	寝衣交換の実際	演習・看護実習室
4	技術チェック	臥床患者の寝衣交換	看護実習室
5	技術試験	臥床患者の寝衣交換	試験・看護実習室
6	筆記試験	環境調整技術・衣生活援助技術(45分)	教室

【成績評価の方法】 筆記試験 9 月～10 月 環境 30 点、衣生活 20 点

技術チェック 7 月 リネン交換 30 点(得点の3割) 6 月 寝衣交換 20 点(得点の 2 割)

【テキスト・参考文献など】 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院

基礎看護技術 第 7 版 医学書院(資料)

【受講者へ要望、留意事項等】

1. 看護実習室で行うときは、ユニフォームを着用し、身だしなみを整えて階段教室に待機していること。
2. 各ベッド担当グループが責任を持って、常にクローズベッドに整え、美しい状態を保つこと。
3. 患者役はTシャツ、スパッツまたはジャージを着用するため準備すること。

分野	基礎 専門基礎 専門	科目名	生活援助技術Ⅱ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 5 月～11 月
授業のねらい・目標			
1. 清潔の意義（3 側面）を理解できる。			
2. 清潔の援助の必要性を導き出せる。			
3. 清潔の援助技術の原則を理解できる。			
4. 安全・安楽に援助を行う方法を理解できる。			
5. プライバシーに配慮した援助方法を実践できる。			

授業計画

	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	清潔の基礎知識	①皮膚の構造と機能 ②清潔の意義・看護の意義 ③ナイチンゲール・ヘンダーソンにおける清潔 ④清潔援助のプロセス ⑤清潔援助の種類	講義
2	清潔の基礎知識	安全・安楽な援助とは？ ホットタオルでの清拭	演習（実習室）
3	清潔援助の実際	①入浴 ②手浴、爪切り ③足浴	講義 DVD 視聴 デモンストレーション（実習室）
4	清潔援助の実際	足浴	演習（実習室）
5	清潔援助の実際	手浴、爪切り	演習（実習室）
6	清潔援助の実際	全身の石鹸清拭	デモンストレーション（実習室） ビデオ視聴
7	清潔援助の実際	全身の石鹸清拭	演習（実習室）
8	清潔援助の実際	全身の石鹸清拭	演習（実習室）
9	清潔援助の実際	①整容 ②陰部洗浄	講義 DVD 演習（実習室）
10	清潔援助の実際	陰部洗浄	演習（実習室）
11	清潔援助の実際	ケリーパッドによる洗髪	デモンストレーション（実習室） ビデオ視聴
12	清潔援助の実際	演習：ケリーパッドによる洗髪	演習（実習室）
13	清潔援助の実際	演習：ケリーパッドによる洗髪	演習（実習室）
14		実技試験 臥床患者の足浴（3 H）	演習（実習室）
15		筆記試験（45 分）	

【成績評価の方法】 筆記試験 70 点、実技試験 30 点

【テキスト・参考文献など】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

【受講者へ要望、留意事項等】 演習時はバスタオル（大きめ）を準備すること

【授業評価】 全授業終了後記載

* 実務経験のある教員などによる授業科目である。

2026 年度 日鋼記念看護学校 26

分 野	基礎	専門基礎	専門	科目名	生活援助技術Ⅲ
				単位・時間数	1 単位 30 時間
				開講学年・時期	1 年生 6 月・10 月～12 月
授業のねらい・目標					
食事と排泄の意義を理解し、その援助方法を修得する。					

授業計画

回	単元	授業内容	授業方法
1	栄養と食事	栄養と食事の意義	講義・演習
2		入院患者の食事	
3		食事介助と患者体験	
4		栄養と食事、栄養療法のまとめ	
5	排泄	排泄の意義	講義・演習
6		排泄援助の実際①	
7		排泄援助の実際②	
8		排泄援助の実際③	
9	導尿	導尿に関する基礎知識	講義・演習
10		導尿の援助①	
11		導尿の援助②	
12	浣腸	排便を促す援助	講義・演習 グループワーク
13		浣腸の実際①	
14		浣腸の実際②	
15		筆記試験	

【成績評価の方法】 筆記試験 100 点満点で 60 点以上を合格とする。

(栄養と食事 30 点 排泄 30 点 導尿 20 点 浣腸 20 点)

【テキスト・参考文献など】 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院

【留意事項等】 各単元の授業計画参照

分野	基礎 専門基礎 専門	科目名	看護展開方法
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 9 月～12 月
ねらい：看護実践の基礎となる看護の展開技術として看護過程を学ぶ。本授業は看護を展開するために必要な考え方を養うことが目的である。			
目標			
1. 看護過程を構成する要素が何かがわかる 2. 事例から情報収集（S・O）をし、整理できる 3. 事例のアセスメント（A）ができる 4. 関連図から患者の全体像を捉えることができる 5. 看護問題を抽出することができる 6. 優先順位の考え方がわかる 7. 看護計画（P）を立案することができる 8. 実施と評価の記載方法がわかる 9. 看護過程を展開する楽しさを実感することができる			

授業計画

	内容	学習内容	学習方法
1	看護過程の概要	看護過程とは 看護過程の構成要素を学ぶ	クラス別講義
2	情報収集	情報収集とは 情報収集の整理方法	
3	情報の分析・解釈	アセスメントとは 事例を用いての実際①	
4	情報の分析・解釈	アセスメントの実際 データベース	
5	情報の分析・解釈	事例を用いての実際①	合同講義・GW
6	関連図	関連図の書き方と事例を用いての実際	合同講義・GW
7	看護問題の抽出と 明確化	事例を用いての実際①	合同講義・GW
8	看護計画立案	看護問題の優先順位の考え方 看護計画の立案方法	合同講義・GW
9	看護計画立案	事例を用いての実際①	合同GW
10	看護計画の立案	事例を用いての実際②	合同GW
11	看護計画の立案	看護計画の発表	合同GW
12	実施と評価	実施と評価について	合同講義
13	実施と評価	実施内容の検討	合同GW
14	実施と評価	ロールプレイの実施 実施と評価の記載	合同GW
15	筆記試験		

【成績評価の方法】筆記試験 100 点

【テキスト】系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書

【受講者への希望】1. 主体的に取り組むこと

分 野	専門分野	科目名	地域・在宅看護概論
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 9 月～12 月

授業のねらい・目標

1. 地域で生活する人々の暮らしを理解する
2. 地域で生活する人々を取り巻く環境・社会背景を理解する。
3. 地域・在宅看護の目的や対象について理解できる。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	地域と生活	地域とは 地域で暮らす人々を取り巻く背景	講義
2	地域と生活	暮らしの理解	講義 グループワーク・発表
3	地域調査	地域調査①調査する地域、場所（学校周囲を主に） 環境が生活にどう影響しているか。	講義 フィールドワーク
4	地域調査	地域調査②まとめ 地域調査結果のまとめ発表 *①レポート課題提出	発表
5	地域・在宅看護の対象	在宅看護の対象者①	講義
6		在宅看護の対象者②	講義
7	地域で暮らすこと	地域で暮らすことの意味 DVD「訪問看護職場体験」視聴 *②レポート課題提出	講義
8	まとめ	筆記試験（45 分）	

【成績評価の方法】

筆記試験 80 点 レポート課題 20 点

レポート課題①②各 10 点

期限を守り内容に不備がない	10 点
期限を守ったが誤字、脱字など内容の不足や不備がある	5 点
期限遅れ、誤字、脱字がある。	0 点

*出席停止中の場合は、登校開始日の出席確認時間前に提出すること。交通事情による遅れは認めない。

【テキスト・参考文献など】 メディカ出版 地域療養を支えるケア

【受講者へ要望、留意事項等】 日頃からテレビ、新聞などの在宅ケアに関わるニュース等に関心を持ち、自分なりの意見を持って講義に臨んでください。

分野	基礎分野 専門基礎分野 専門分野	科目名	成人看護学概論
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 10 月～翌 2 月
ねらい・目標 成人期にある対象の特徴を理解し、成人の健康生活の多様な状況をとらえ、ヘルスケアシステムの中の一員として看護の果たす役割を学ぶ。 1 生涯発達からみた成人の特徴を理解する。 2 成人の生活状況が健康に及ぼす影響について理解する。 3 成人の健康を守り育む対策やシステムを理解する。 4 成人の健康生活に対応した看護を理解する。 5 成人の看護アプローチの基本となる理論や方法を理解する。 6 各健康レベルの特徴とそれに応じた看護活動を理解する。			

授業計画

	学習内容	学習方法
1	第 1 章 成人各期の生涯発達	講義
2	第 2 章 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 1. 成人を取り巻く環境と生活の状況	講義
3	第 2 章 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2. 成人の健康の状況	講義
4	DVD 視聴	DVD 視聴
5		レポート作成
6	第 2 章 生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義
7	第 4 章 ヘルスプロモーションと看護	講義
8	第 5 章 健康をおびやかす要因と看護 1. 健康バランスに影響を及ぼす要因	講義
9	第 5 章 健康をおびやかす要因と看護 2. 生活行動がもたらす健康問題とその予防	講義
10	第 3 章 成人への看護アプローチの基本	講義
11	第 6 章 健康生活の急激な破綻とその回復を促す看護 [急性期]	講義
12	第 7 章 慢性病とともに生きる人を支える看護 [慢性期]	講義
13	第 8 章 障害がある人の生活とリハビリテーション [回復期]	講義
14	DVD 視聴	DVD 視聴
15	筆記試験 (60 分間)	

【成績評価】筆記試験、レポート

【テキスト】専門分野 (成人) 成人看護学総論 2024 年版 医学書院

【参考書】国民衛生の動向 (後期分のテキストになります)

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	老年看護学概論
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 7 月～9 月
授業のねらい・目標			
ライフステージのなかの老年期の身体的・精神的・社会的変化を捉え、老年看護の対象を理解できる。			
1. 老年期をライフサイクルの流れの中で説明できる。			
2. 高齢者の身体・精神・社会的な特徴の概要を説明できる。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	高齢者とは	老化とは ライフサイクルからみた高齢者の理解	講義
2	加齢に伴う変化	身体機能の生理的変化・心理・精神・社会的機能の変化	グループワーク
3		身体機能の生理的変化・心理・精神・社会的機能の変化	グループワーク
4		身体機能の生理的変化・心理・精神・社会的機能の変化	グループ毎に発表
5		身体機能の生理的変化・心理・精神・社会的機能の変化	グループ毎に発表 まとめの講義
6		加齢に伴う変化のグループ発表 まとめ	発表 講義
7	高齢者看護の特性	看護するものの態度 高齢者特性からみた高齢者看護	講義
8	試験	筆記試験（45分）	

【成績評価の方法】

筆記試験 80 点満点 グループワーク参加姿勢と発表姿勢 20 点

【テキスト・参考文献など】

高齢者の健康と障害 老年看護学① メディカ出版
 高齢者看護の実践 老年看護② メディカ出版

【受講者へ要望、留意事項等】

- ① 高齢者擬似体験時はユニフォーム着用 実施方法については後日、資料配布
- ② 終了後レポート課題あり

グループワークでは、各自意見を出し合い、積極的に参加すること

- ① 図書ラウンジ、図書室、情報処理室の利用可
- ② インターネットは信憑性の高い情報を選択してください
- ③ グループでの資料提出あり（提出期限は後日提示）

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	老年援助論Ⅰ
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 10 月～12 月
授業のねらい・目標			
さまざまな健康レベルにある高齢者について理解を深める。			
看護を展開するための知識・技術・態度を修得し実践へとつなげる。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	食生活を支える看護	食生活の意義 食事に影響を及ぼす要因 高齢者の摂食嚥下障害の背景と特徴 食事のアセスメント 食事のセルフケア支援のポイント	講義
2	排泄を支える看護①	排泄行動自立の意義 高齢者の身体的変化と排尿・排便障害 排尿・排便障害のアセスメント 脱水	講義
3	清潔保持とスキンケア	高齢者の清潔の意義 皮膚の加齢と影響	講義
4	活動と休息を支える看護①	高齢者の活動と休息の特徴 活動と休息のアセスメント 活動と休息の支援	講義
5	歩行・移動を支える看護	歩行・移動 骨粗鬆症 高齢者の骨折の背景と特徴 褥瘡発生要因と予測 廃用症候群	講義
6	排泄を支える看護②	高齢者に対する看護の実際 (おむつ交換) レポート提出	演習
7	まとめ		講義

【成績評価の方法】

排泄を支える看護（おむつ交換）レポート課題 10 点
 筆記試験：90 点

【テキスト・参考文献など】

高齢者の健康と障害 老年看護学① メディカ出版
 高齢者看護の実践 老年看護② メディカ出版

【受講者へ要望、留意事項等】

復習はテキスト、講義資料、参考文献を用いて学習した内容を整理し、理解を深めてください。

分 野	専 門	科目名	小児看護学概論
		単位・時間数	1単位 30 時間
		開講学年・時期	1年生 9月～ 2月

＜授業のねらい・目標＞

子どもと接する機会が少ない現代の学生に対し、社会情勢の変化に伴い、子どもが社会の中でどのように育っていくのか、またどのような問題が生じているのかを考えることで、小児看護が果たす役割と機能を理解する基盤を作ることをねらいとする。2年次の小児援助論、3年次の小児看護演習、小児看護学実習に向けて、自らが問題意識をもち、考えて行動するための基礎的能力を養いたい。

目標は、①子どもに対する興味・関心を持つこと、②子ども観を育むこと ③小児と家族を取り巻く社会情勢や諸問題がわかること ④発達段階各期の成長・発達の過程や起こりやすい健康問題がわかること。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	小児看護の特徴と理念	1. 小児とは 子ども観 2. 小児看護の目ざすところ 3. 小児と家族の諸統計 4. 小児看護の変遷 5. 小児看護の課題	講義
2	小児看護における倫理	1.子どもの権利 2.小児医療と子どもの権利 3.小児看護と倫理的配慮	講義
3	子どもの成長・発達	1. 成長・発達とは 2. 成長・発達の進み方(一般的原則) 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長・発達の評価 5. エリクソンの理論	講義 グループワーク
4	新生児期の看護 乳児期の看護	1. 新生児、乳児の成長・発達 2. 新生児、乳児の養育および看護 3. ボウルビーの理論	講義
5	幼児期の看護	1. 幼児期の成長・発達(保育所見学) 2. 幼児期の成長・発達(個人レポート作成)	保育所見学 課題学習
6		1. 幼児期の成長・発達 2. 幼児の養育および看護	グループワーク
7	遊びと教育	1. 子どもの権利と遊び 2. 子どもと教育 特別支援教育 3. 遊びの計画	講義 グループワーク
8		1. 遊びの発表 ※今までのまとめ 2.子どもの安全 子どもの事故 セーフティプロモーション	発表

9	子どもの栄養	1. 子どもにとっての栄養の意義 2. 子どもと食育 3. 食事摂取基準 4. 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護	講義
10	学童期の看護 思春期の看護	1. 学童期・思春期・青年期の成長・発達 2. 学童期・思春期・青年期の養育および看護 3. エリクソン ピアジェの理論	講義 個人ワーク
11	家族の特徴と アセスメント	1. 子どもにとっての家族とは 2. 家族アセスメント	講義
12	子どもの虐待と看護	1. 子どもの虐待の現状と対策の経緯 2. 子どもの虐待とは 3. リスク要因と発生予防・早期発見 4. 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 5. 求められるケア	講義 グループワーク
13	子どもと家族を取り巻く 社会	1. 児童福祉 2. 母子保健 3. 医療費の支援 4. 予防接種法 5. 学校保健	講義 グループワーク
14		1. グループワークの発表 2. 授業のまとめ	
15	テスト	筆記テスト	テスト

【成績評価の方法】

筆記試験 ○○先生 50 点、○○先生 40 点

提出課題 10 点

【テキスト・参考文献など】

1. 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
2. 国民衛生の動向

【受講者へ要望、留意事項等】

講義・グループ学習を通して、それぞれの子ども観を育んでほしい。

分 野	専門分野	科目名	母性看護学概論
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 9 月～2 月

授業のねらい・目標

母性看護の概念、目的、機能、母子保健の動向を学び、母性看護の役割を考える。思春期・成熟期リプロダクティブヘルスの概念を学び、人間の性と生殖の意義、生命の尊厳に対する考えを深める

目標

1. 母性看護の概念、目的、機能、母子保健の動向から看護の役割を理解する。
2. 性の多様性、リプロダクティブ・ヘルツ/ライツの定や基本要素について理解する。
3. 生殖における健康問題の特徴や看護について理解する。
4. 母性看護における倫理的課題から生命の尊厳と相手を尊重する価値観を養う

授業計画

回	単元	授業内容	授業方法	事前課題・事後学習
1	母性看護の概念	学習の進め方、母性看護の基盤となる概念について	講義 GW	
2	母性看護	母性看護における統計	個人ワーク	事前課題①
3	の統計と	母性看護における法律	個人ワーク	事前課題②
4	法律	子育て支援に関する施策	個人ワーク	事後学習（レポート①）
5	人間の性	妊娠の成立 月経について性周期とホルモン	講義	事前課題③
6	と生殖について	リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ セクシュアリティ性の多様性について	講義、 GW	事後学習（レポート②）
7	生殖にお	月経異常について	講義・GW	事前課題④
8	ける健康	性感染症について	講義・GW	事前課題⑤
9	問題と	不妊について	講義・GW	事前課題⑥
10	看護	ドメスティック・バイオレンスと性暴力	講義・GW	事前学習⑦
11	母性看護	倫理的問題	GW	事前学習⑧
12	における	倫理的問題	GW	
13	倫理的問題	倫理的問題	発表	
14	題	倫理的問題	発表	レポート③
15		筆記試験		

【成績評価の方法】

筆記試験 50 点 + レポート 18 点 + 事前課題 32 点 の合計

	事前課題 8 つ×4 点 (32 点)	レポート 3 つ×6 点 (18 点)
期限を守り内容に不備がない	4 点	6 点
期限を守ったが、内容に不備が多い	3 点	5 点
期限の遅れはあるが、内容に不備がない	2 点	4 点
期限の遅れがあり、不備が多い	0 点	1 点

【テキスト】 ナーシング・グラフィカ母性看護学①②
国民衛生の動向（母性看護の統計と法律）

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	精神看護学概論
		単位・時間数	1単位 15時間
		開講学年・時期	1年生 12月～2月
授業のねらい・目標			
1. 精神の健康に影響を及ぼす要因と対処法について理解する			
2. 心身の健康保持の大切さを理解する			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	こころの健康	精神障害が生じるきっかけとプロセス	講義
2	こころと行動	こころの理解 こころと環境	講義
3	医療現場における危機	フインクの危機理論 リエゾン看護 ストレスマネジメント	講義
4	発達課題とこころの危機	人生各期の発達段階とこころの危機 現代社会と暮らしの場におけるこころの問題(嗜癖)	講義 DVD 視聴 DVD 視聴レポート①
5		現代社会と暮らしの場におけるこころの問題(引きこもり・自殺)	講義 DVD 視聴 DVD 視聴レポート② 課題レポート
6 7	精神障害者を知る	映画「ビューティフルマインド」鑑賞	DVD 視聴
8	試験	筆記試験(45分)	

【成績評価の方法】

レポート提出:現代社会とこころの問題について課題レポート 30点

DVD 視聴レポート①、②各 10点

筆記試験 :50点

【テキスト・参考文献など】

精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版

分 野	専門分野	科目名	統合技術演習Ⅰ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	1 年生 12 月～翌 3 月
授業のねらい・目標			
既習の学習と技術を対象に合わせて統合し、必要な援助を判断する			
対象に適した援助を安全安楽に実践する方法を身につける			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1・2	看護技術演習①	授業計画について 事例の掲示① 援助計画立案	講義
3・4		対象理解 事例患者からの情報収集 援助計画の修正	演習
5・6		事例に沿った看護技術の実施① バイタルサイン＋部分浴＋体温調節＋整容	実技試験①
7		看護技術①の振り返り	グループワーク
8・9	看護技術演習②	授業計画について 事例の掲示② 援助計画立案	講義
10・11		対象理解 事例患者からの情報収集 援助計画の修正	演習
12・13		事例に沿った看護技術の実施②(2 名で実施) 臥床患者の寝衣交換＋体位変換＋自動・他動運動 臥床患者のリネン交換＋体位変換＋自動・他動運動	実技試験②
14		看護技術②の振り返り	グループワーク
15	まとめ	全体の学びの発表	グループワーク・発表

【成績評価の方法】

援助計画:40 点(看護技術演習①20 点、②20 点)

看護技術:60 点(看護技術演習①30 点、②30 点) で評価します

【テキスト・参考文献など】

基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院

分野	専門分野	科目名	基礎看護演習
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	1 年生 11 月～翌 1 月

授業のねらい・目標

1. 紙上事例・受け持ち患者を通して、看護の展開方法を理解する
2. 看護の展開方法を修得することで、対象を理解することの大切さに気付くことができる。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	情報収集	オリエンテーション・事例紹介・情報収集・整理	DVD 視聴
2	情報の分析/解釈	事例からアセスメント	個人ワーク
3	情報の分析/解釈	アセスメントした内容の検討	グループワーク
4	アセスメントから 看護問題の明確化	関連図作成	グループワーク
5	グループディスカッション	グループで集約したアセスメント・関連図の検討	グループワーク
6	アセスメントから 看護問題の明確化	受け持ち患者のアセスメントの実施 看護上の問題の明確化	個人ワーク
7	看護計画立案	看護計画の立案	個人ワーク
8	カンファレンス	作成した看護計画の検討	グループワーク

【成績評価の方法】

課題提出 50 点、課題内容評価 50 点

【テキスト・参考文献など】

看護展開方法の講義資料

【受講者へ要望、留意事項等】

- ・わからないこと、困ったことがあれば積極的に聞くこと
- ・グループワークでは自己の意見を積極的に述べること

分 野	専門分野	科目名	基礎看護学実習 I
		単位・時間数	1 単位 45 時間
		開講学年・時期	1 年生 9 月・11 月
授業のねらい・目標 実習目的 入院患者の療養環境を理解し、看護の役割を学ぶ 実習目標 1. 患者の入院生活の環境を理解する 1) 病棟内の各部門・部署の機能・役割を知る 2) 病棟の構造、患者の病床環境を知る 2. 日常生活援助の実際を知る 1) 臨床で行われている看護技術の実際を知る 3. 日常生活援助を受けている患者の気持ちを理解する 1) 看護師と患者のコミュニケーションの実際を知る			

授業計画

授業の内容				授業方法
時期	基礎看護学実習Ⅰ－1	12 時間	1 年次	実習
	基礎看護学実習Ⅰ－2	33 時間	1 年次	
1. オリエンテーション 基礎看護学実習Ⅰ 目的・目標・実施方法、実習記録、留意事項及び実習施設の概要について、オリエンテーションを行う。 基礎看護学実習Ⅰ－1 実習前 1.5 時間 基礎看護学実習Ⅰ－2 実習前 6 時間 2. グループ編成 1グループ 4 名～5 名とし、8 グループ編成する 3. 実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 1) 基礎看護学実習Ⅰ－1 ①日鋼記念病院 8 部署で見学実習を行う ②院内関連部署の見学を行う(放射線科、生理検査科、検体・病理検査科、薬剤部、リハビリテーション部門(PT/OT)、患者図書室 2) 基礎看護学実習Ⅰ－2 ①日鋼記念病院 7 部署で行う ②看護師と共に援助の実施、または見学を行う院 ③患者の日常生活に関する情報収集をする。 ・ 身体に関する情報・飲食・排泄・睡眠と休息・清潔と身だしなみ・活動と体位 ④主観的情報と客観的情報に整理する。				

【成績評価の方法】 レポート、対象の理解、看護技術、看護記録、達成度、情意領域など実習評価項目に沿った

評価による総合評価 100 点満点

【教科書等】教科書:使用しない 参考文献:適宜、指示する

【受講者へ要望、留意事項等】 実習記録(受持患者の基本情報(様式1)、日常生活の情報(S, O)、一日の振り返り(様式5)の作成ならびに事前学習・関連学習を行ってください

分 野	専門分野	科目名	基礎看護学実習Ⅱ
		単位・時間数	2 単位 60 時間
		開講学年・時期	1 年生 1 月～2 月

授業のねらい・目標	
実習目的	人間を生活体としてとらえ、看護の役割を認識し、看護実践の基礎的能力を養う
実習目標	1. 患者を理解するために必要な情報を収集し、アセスメントすることができる
	2. 患者の日常生活行動を考え、必要な援助を実施できる。
	3. 患者・家族と意図的なコミュニケーションがとれる
	4. 看護チームの一員として行動できる

授業計画

授業の内容	授業方法
1. オリエンテーション 基礎看護学実習Ⅱ 目的・目標・実施方法、実習記録、留意事項及び実習施設の概要について、オリエンテーションを行う。 実習前 9 時間 2. グループ編成 1グループ 3 名～4 名とし、7グループ編成する 3. 実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 1) 時期 ①実習日 A 組:8 日間 B 組:8 日間 ②記録のまとめ 15 時間 ③実習のまとめ 6 時間 2) 日鋼記念病院7部署で行う 3) 看護師と共に援助の実施、または見学を行う 4) 患者理解のための情報収集とアセスメント ①患者に関する情報収集をする ・身体に関する情報・飲食・排泄・睡眠と休息・清潔と身だしなみ・活動と体位・その他 ②主観的情報と客観的情報に整理する ③情報の意味を考える(現状・原因・なりゆき・援助の必要性についてアセスメントする) ④患者への必要な援助を考える	実習

【成績評価の方法】レポート、対象の理解、アセスメント、看護技術、記録と報告、達成度、

情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【教科書等】教科書:使用しない 参考文献:適宜、指示する

【受講者へ要望、留意事項等】 自己の課題と目標を設定し、実習記録(受持患者の基本情報(様式1)、受持患者の情報用紙(様式2)、一日の振り返り(様式5)) の作成ならびに事前学習・関連学習を行ってください。

分 野	基礎分野	科目名	情報科学Ⅱ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 10 月～2 月

授業のねらい・目標

データ分析法を体系化した学問である統計学の基礎を学び、与えられたデータをコンピューターを用いて分析できるようになることを目的とする。

1. 統計学の基礎知識を理解すること
2. 与えられたデータに対してコンピューターを用いた統計解析ができるようになること

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	データの整理	母集団と標本集団、度数分布表、ヒストグラム	講義
2	データの代表値	平均値、中央値、最頻値	講義
3	データのばらつき	分散、標準偏差、データの標準化	講義
4	対応するデータの間の関係	散布図、相関係数	講義
5	対応するデータの予測	回帰分析	講義
6	データ群の間の比較	統計的仮説検定(t 検定)	講義
7	中間筆記試験		
8	Excel の基本	Excel の基本操作、関数、グラフ	演習
9			
10	Excel の基本	度数分布、ヒストグラム、基本統計量	演習
11			
12	Excel の基本	回帰分析、統計的仮説検定の実際	演習
13			
14	総合演習	演習レポート作成・提出	演習
15			

【成績評価の方法】

中間筆記試験 60 点、演習レポート 40 点

【テキスト・参考文献など】

資料

【受講者へ要望、留意事項等】

分 野	基礎分野	科目名	社会学
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 9 月～12 月

授業のねらい・目標

ねらい:

社会構造や規範・秩序に対して社会学から理解する。日本の家族・仕事・教育の変化を学び、社会の変化と私たちの生活を考える力を養う。

目標:

1. 社会構造と社会の変化について理解する。
2. 社会の一員である「自己」と社会の繋がりについて考えることができる。
3. 社会調査の意義と方法について理解する。

授業計画

回	日程	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1		ガイダンス	社会学という学問の概要と授業の目的の説明	座学
2		日本社会の変化	戦争と高度経済成長による社会の変化について	座学
3		人口移動	都市の過密と地方の過疎の課題について	座学
4		人口推計	コーホート要因法による人口推計方法について	座学
5		平成の社会変化	昭和時代と平成時代の違いについて	座学
6		日本型循環モデル	家庭中心に再生産される社会の仕組みについて	座学
7		家族感	戦後、高度経済成長、平成、変化する家族像について	座学
8		いきづらさ	孤立する個人の存在について考える	座学
9		労働	日本型雇用の崩壊と働き方の変化について	座学
10		女性労働	男女共同参画社会と家族形成の変化について	座学
11		結婚	男女の出会いについて	座学
12		超高齢化社会	高齢者を取り巻く問題について	座学
13		貧困	相対的貧困への支援方法について	座学
14		災害対策	自助、共助、公助による社会形成について	座学
15		地域社会	共助の実践の場としての地域社会について	座学

【成績評価の方法】

最終の試験は行わずに、レポートを5回課して100点満点で評価する。すべてのレポートを提出することを評価の条件とする。締切りに提出できない場合は、その回の点数はない。

60点以上を合格とする。

【テキスト・参考文献など】

テキストは使用しない。

レジュメを印刷の上配布する。

参考文献：

阿部彩・鈴木大介『貧困を救えない国 日本』PHP 新書

小林美希『ルポ中年フリーター』NHK 出版新書

田所承己・菅野博史編『つながりをリノベーションする時代』弘文堂

筒井淳也・前田泰樹『社会学入門』有斐閣ストウディア

橋爪大三郎他『社会学講義』ちくま新書

広井良典『日本の社会保障』岩波新書

本田由起『もじれる社会—戦後日本型循環モデルを超えて』ちくま新書

増田寛也『地方消滅 - 東京一極集中が招く人口急減』中公新書

山田昌弘『結婚不要社会』朝日新書

NHK「クローズアップ現代+」取材班『アラフォー・クライシス』新潮社

【受講者への要望、留意事項など】

社会学は、自分たちが生活している社会を、データ化することで明らかにし理解を深める学問です。身の回りの出来事に関心を持ち、データを使って社会の状況を把握してください。想像とは違う社会の実態に驚くことでしょう。

授業中にグループワークで意見交換を行うことがあります。

分 野	基礎分野	科目名	人間関係論
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2年生 9 月～2月
授業のねらい・目標			
人間を人との関係のなかで生き成長する存在としてとらえ、人間関係を円滑に保つ必要性和方法を理解する。			
人間関係を円滑に保つための技法を学び、自己の成長と良好な人間関係形成に役立てる。			

授業計画 <1 回～15 回>

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	自己理解、他者理解	自己理解に役立つアセスメントの演習と臨床の場面での応用について考える	講義・演習
2			
3			
4	認知行動療法	理論を学び、自動思考に気づくためのワークを実践する	講義・演習
5			
6			
7			
8			
9	人間関係に役立つ臨床心理学の知識	防衛機制などの臨床心理学の基礎知識を学ぶ	講義・演習
10			
11			
12			
13	リラクセーション アサーション	リラクセーション アサーション リフレーミングなどについて学ぶ	講義・演習
14	リフレーミング		
15	試験		

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

(講義で取り上げた用語 20 点、選択問題 30 点、講義で実践した認知行動療法のワークシート 50 点)

【テキスト・参考文献など】

テキストは用いない。必要時資料を配布する。

分野	基礎	専門基礎	専門	科目名	レクリエーション理論
				単位・時間数	1 単位 15 時間
				開講学年・時期	2 年生 4 月～7 月
授業のねらい・目標					
・ 対象に合わせたレクリエーション活動の実践に生かすことができる。 ・ 心を元気にすること ・ コミュニケーションのスキルアップ					

講義計画

回	日程	授業内容	授業方法
1	レクリエーション概論	レクリエーション概論 レクリエーション支援とは	講義
2	レクリエーション概論	「レクリエーションインストラクターとは」 レクリエーションインストラクターの2つの役割	講義
3	実技編 レクリエーション活動	レクリエーションの種類 (自己紹介・地域での活動)	講義 演習
4	身体を動かす レクリエーション①	活動そのものの楽しさ 道具なしでの活動 (体操・ダンス等)	講義 演習
5	身体を動かす レクリエーション②	集団で行う楽しさ・コミュニケーション 道具を使っでの活動 (ニュースポーツ等)	講義 演習
6	リラックスできる レクリエーション	心が元気になるとは 休養・気分転換 (音楽・マッサージ等)	講義 演習
7	まとめ 楽しむとは	レクリエーション活動の創作・立案・実行 (自ら楽しむことを感じてみる)	講義 演習
8	7 月未定	筆記試験	

【成績評価の方法】〇〇先生 30 点 〇〇先生 70 点 (レポート 5 点×4 回、筆記試験 50 点)

【テキスト・参考文献など】

楽しさをとoshた心の元気づくりーレクリエーション支援の理論と方法ー

発行：公益財団法人レクリエーション協会

【受講者へ要望、留意事項等】

暑くなる時期なので、こまめな水分補給をしましょう。

演習時は、動きやすい服装としてください。

分 野	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅳ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 5 月～10 月
授業のねらい・目標 脳神経系、女性生殖系、歯科口腔外科系の主な疾患と病態生理、症状、検査、治療を理解する。 放射線診断・治療と放射線防御について理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	歯科口腔外科	口腔外科① 総論 入院と手術	講義
2		口腔外科② 外来診療	講義
3		口腔外科③ 入院診療	講義
4	放射線診断	放射線診断①	講義
5		放射線診断②	講義
6	放射線治療	放射線治療 放射線防護	講義
7	脳神経系	脳神経外科総論	講義
8		神経症状①	講義
9		神経症状②	講義
10		検査・治療 脳疾患	講義
11		脳腫瘍 頭部外傷	講義
12	女性生殖系	女性生殖器の解剖・機能 性周期とホルモン	講義
13		症状と病態生理	講義
14		婦人科検査 代表的な疾患について	講義
15	試験		講義

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点（時間内 90 分間）

【テキスト・参考文献など】

医学書院：成人看護学7脳神経 成人看護学9女性生殖器 成人看護学 15 歯・口腔
別巻臨床放射線医学

分 野	専門基礎分野	科目名	治療論 I
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 5 月～10 月
授業のねらい・目標			
手術療法、麻酔法、救急法について理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	外科的治療法	手術適応 手術侵襲と生体の反応 甲状腺・乳がん	講義 (パワーポイント)
2		胃がんの手術 消化管憩室 虫垂炎	講義
3		イレウス 腹膜炎	講義
4		自然気胸の治療 肺がんの手術 食道がんの手術	講義
5		肝臓・胆のう・すい臓の外科的治療	講義
6		大腸がんの手術 体液・栄養管理	講義
7		腹腔鏡下手術 輸血療法 まとめ	講義
8	創傷管理	創傷治癒と創傷管理法	講義
9	心臓血管外科	心臓血管外科について①	講義
10		心臓血管外科について②	講義
11		心臓血管外科について③	講義
12	麻酔法・救急法	麻酔総論 麻酔の種類と特徴、術前・術中・術後管理、術後鎮痛法	講義
13		麻酔各論 全身麻酔・局所麻酔	講義
14		酸素療法 機械的人工換気 ECMO 体外循環 脳死と臓器移植について	講義
15		筆記試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

医学書院：臨床外科看護総論 臨床外科看護各論（毎回準備すること）

分 野	専門基礎分野	科目名	治療論Ⅱ
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	2 年生 10 月～1 月

授業のねらい・目標

透析療法、形成外科的治療、検査法について理解する。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	透析療法	腎不全 血液透析療法	講義
2		CAPD 腎移植	講義
3	形成外科的治療	熱傷と治療	講義
4		褥瘡と治療	講義
5	検査法	内視鏡検査	講義
6		生理検査	講義
7		検体検査	講義
8		筆記試験(45 分間)	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点（時間内 45 分間）

【テキスト】

＜医学書院＞ 成人看護学[8]腎・泌尿器 成人看護学[12]皮膚
 成人看護学[5] 消化器
 資料

分 野	専門基礎分野	科目名	臨床薬理学
		単位・時間数	2 単位 45 時間
		開講学年・時期	2 年生 4 月～12 月
授業のねらい・目標 薬物による疾病治療の原理、薬理作用の効果、副作用を理解する。			

授業計画

回	章	授業内容	授業方法
1	第1部 総論	薬物治療の基盤 1. 医薬品の取り扱い 2. 薬物療法の実際 3. チーム医療と薬物治療	講義
2	第2章	対症療法薬の臨床薬理学 1(解熱鎮痛薬・制吐剤・便秘・下痢治療薬・鎮咳・去痰薬・鎮静・睡眠薬)	講義
3	第3章	主要疾患の臨床薬理学1(循環器系)	講義
4	第3章	主要疾患の臨床薬理学2(呼吸器・消化器系)	講義
5	第3章	主要疾患の臨床薬理学3(腎・糖尿系)	講義
6	第3章	主要疾患の臨床薬理学4(物質代謝系)	講義
7	第3章	主要疾患の臨床薬理学5(神経系)	講義
8	第4章	特定行為に関する臨床薬理学1(循環動態に関わる薬剤の投与と調整)	講義
9	第4章	特定行為に関する臨床薬理学2(栄養および水分管理に関わる薬剤の投与と調整)	講義
10	第4章	特定行為に関する臨床薬理学3(インスリン)	講義
11	第4章	特定行為に関する臨床薬理学4(精神および神経症状に関わる薬剤の投与と調整)	講義
12	第4章	特定行為に関する臨床薬理学4 感染徴候のある対象への薬物療法 副腎皮質ステロイド薬による治療	講義
13	第4章	特定行為に関する臨床薬理学4 術後ならびに呼吸管理に関わる薬物の投与と調整	講義
14	第4章	特定行為に関する臨床薬理学4 術後ならびに呼吸管理に関わる薬物の投与と調整	講義

回		授業内容	授業方法
15	薬物療法を受ける患者への看護	薬物療法における看護師の役割 (毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬の管理) 各適用方法別の薬物療法の特徴・方法・注意点 経腸栄養の目的・方法・注意点	講義
16		経口・吸入・点眼・点耳・点鼻・経皮的投与の方法と注意点	講義
17		針刺し事故・誤薬防止 注射の基礎知識	講義
18		注射器具の種類と構造・取り扱い方 注射の準備(バイアルからの薬液の吸い上げ)	講義 演習 (実習室)
19	皮下注射 皮内注射	皮下注射の方法と注意点 皮内注射の方法と注意点 皮下注射技術練習	講義 演習 (実習室)
20	筋肉注射 静脈注射	筋肉注射の方法と注意点 静脈内注射・点滴静脈内注射の方法と注意点 輸液ポンプ・シリンジポンプ	講義
21	筋肉注射	筋肉注射技術練習 (45 分)	講義 (実習室)
22	皮下注射 筋肉注射	技術チェック	演習 (実習室)
23		筆記試験(90 分)	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点満点 1～14 70 点 15～20 30 点

【テキスト・参考文献など】

「臨床薬理学」 医学書院

「基礎看護技術Ⅰ」基礎看護学② 「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学③ 医学書院

【授業評価】

全授業終了後記載

分 野	専門基礎分野	科目名 単位・時間数	リハビリテーション論 1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 4 月～9 月
授業のねらい・目標 障害のレベルに応じたリハビリテーションの基本概念を理解する。 日常生活行動の自立に向けたリハビリテーションの実践を学ぶ。			

授業計画

回	日時	テーマ	授業内容	授業方法
1	9:00～	リハビリテーション概論	リハビリテーションの定義 理念	講義
2	14:40～	運動器系障害	運動器系の障害とリハビリテーション①	講義
3	14:40～		運動器系の障害とリハビリテーション②	講義
4	14:40～	呼吸・循環系障害	呼吸・循環系の障害とリハビリテーション	講義 演習
5	14:40～	中枢神経系障害	中枢神経系の障害とリハビリテーション① 脳血管系障害の理学療法	講義
6	14:40～		中枢神経系の障害とリハビリテーション② 脊髄損傷・パーキンソン病の理学療法	講義
7	14:40～	理学療法	理学療法の実践	演習(実習室)
8	14:40～	作業療法	作業療法概論	講義
9	14:40～		整形外科領域の作業療法 自助具	講義
10	14:40～	音声・言語・聴覚障害	コミュニケーション障害とリハビリテーション	講義
11	14:40～		嚥下障害とリハビリテーション	講義
12	14:40～		ST の実践	演習(実習室)
13	A 14:40～	理学療法	理学療法室見学	理学療法室見学
	B 14:40～	作業療法	作業療法室見学 小児理学療法室見学	作業療法室見学
14	A 14:40～	作業療法	作業療法室見学 小児理学療法室見学	作業療法室見学
	B 14:40～	理学療法	理学療法室見学	理学療法室見学
15			試験	

【成績評価の方法】筆記試験 100 点満点 【テキスト・参考文献など】リハビリテーション看護 医学書院

【受講者へ要望、留意事項等】7、12、13、14 回目はユニフォームを着用する。

* 13,14 回目は、3 グループに分かれて入れ替わりで見学予定

分 野	専門基礎分野	科目名	臨床栄養学
		単位・時間数	1単位 15 時間
		開講学年・時期	2 年生 4 月～6 月
授業のねらい・目標 健康生活の維持に必要な栄養素の適量摂取について理解する。 代謝障害、病態に応じた食事療法について理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	消化吸収の仕組みと栄養	食べ物と栄養素 食事摂取基準	講義
2		からだの仕組み 消化吸収と栄養素の働き 炭水化物	講義
3		消化吸収と栄養素の働き ビタミン エネルギー代謝	講義
4	健康生活・健康障害と食事療法	ライフステージと栄養 健康維持と栄養	講義
5		疾病と個別対応①	講義
6		疾病と個別対応② 代謝及び内分泌系(肥満・通風)	講義
7		栄養アセスメント 栄養サポート 栄養素補給方法	講義
8		筆記試験(45 分間)	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点満点

【テキスト・参考文献など】

疾病の成り立ちと回復の促進④臨床栄養学 メディカ出版

【受講者へ要望、留意事項等】

分 野	専門基礎分野	科目名	社会福祉論
		単位・時間数	2単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 4 月～9 月

授業のねらい・目標

社会福祉、社会保障制度の基本的概念を学ぶ。

現代社会の福祉制度の実際と課題を理解する。

授業計画

回	日時	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	9:00～10:30	第1章	社会保障制度と社会福祉	講義
2	9:00～10:30	第2章	現代社会の変化と社会保障 社会福祉の動向	講義
3	9:00～10:30	第3章	医療保障①	講義
4	10:40～12:10		医療保障②	講義
5	10:40～12:10	第4章	介護保障	講義
6	10:40～12:10	第5章	所得保障	講義
7	10:40～12:10	第6章	生活保護①	講義
8	10:40～12:10		生活保護②	講義
9	9:00～10:30	第7章	高齢者福祉	講義
10	9:00～10:30		障がい者福祉	講義
11	9:00～10:30		児童家庭福祉	講義
12	9:00～10:30	第8章	社会福祉実践と医療・看護①	講義
13	9:00～10:30		社会福祉実践と医療・看護②	講義
14	9:00～10:30	第9章	社会福祉の歴史 まとめ	講義
15			試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉

【受講者へ要望、留意事項等】

分 野	専門基礎分野	科目名	看護関係法規Ⅰ
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	2 年生 10 月～12 月

第1 獲得目標

知識として法を学ぶのではなく、将来社会人、看護師として法を使いこなす、創造していくことができる能力の育成。

- 1 自ら思考し、仲間と議論し、法（ルール）を作ることができる能力
- 2 社会人として必要な憲法・法律に関する知識とそれを活用する能力
- 3 社会と法の担い手としての自覚
- 4 プロフェッショナルとして専門知識を活用する能力

- ・文献等で検索・調査する能力（調査能力）
- ・患者にわかりやすく、正確に説明する能力（説明能力）
- ・知識を実行し患者に貢献する能力（行使能力）

※「患者」を「相談者」に置き換えれば、そのまま弁護士にも当てはまる。

授業計画

回	月日	授業内容	授業方法・備考
1		民主主義は少数派の人権を侵害する？ (議論によるルール作り)	講義
2		「昔話法廷」による評議体験	講義
3		模擬裁判(演習)	演習
4		模擬裁判講評・えん罪が生まれる理由	講義
5		社会生活・看護と法律①(ネット社会とプライバシー・著作権)	講義
6		社会生活・看護と法律②(外部講師:B型肝炎訴訟原告)	講義
7		まとめ(プロフェッショナル論と法的思考力)	講義
8	未定	筆記試験(45 分間)	

【成績評価の方法】

第2 評価基準

いかに自分の頭で考え、自分の言葉で表現しようとチャレンジしたか、で評価する。

① レポート (A: 5 点。B: 3 点。C: 1 点。最大で5点×8で40点。)

第1講、第2講、第3・4講(模擬裁判。1～3本のレポート提出)、第5講、第6講、第7講。

② 模擬裁判配役ボーナス (10点)

第3講 模擬裁判に、裁判官・検察官・弁護人・証人・被告人に立候補した学生(立候補者多数の場合はジャンケン。落選者も加点)

③ 期末試験 (50点)

論述式。記憶力ではなく、問題文の読解力と思考力、論述力で評価。

【テキスト・参考文献など】 医学書院 看護関係法令

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	看護研究
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 11 月～ 3 月
【授業のねらい】 みなさんはこれまで基礎看護学実習、成人・老年看護学実習を通して、様々な疑問や「あれっ? どうして?」と思ったことがあると思います。その「あれっ? どうして?」は調べれば解かるものと調べても解らないものがあります。看護研究は、看護の現象や看護実践の中にある「調べてもわからないもの」を種として研究テーマに取り組みます。そしてその研究で明らかになった知見は、看護実践に活用され、看護の質の向上さらに看護学の知識体系として積み重ねられ看護の発展につながります。 本授業では、看護研究の意義と目的、文献検索、研究方法、研究の倫理的配慮について学習し、自ら学習・研究する姿勢を身に付けることをねらいとしています。 【授業の到達目標】 1. なぜ看護研究が必要なのか自分の言葉で説明できる。 2. 研究の問いのレベルと研究デザインを説明できる。 3. オンラインデータベースを活用して文献検索が出来る。 4. 研究に必要な用語を正しく使用できる。 5. 疑問点や関心のある事柄を調べようとする気持ちが高まる。 6. 実習で担当した事例の実践を客観的に振り返り、ケースレポートとしてまとめ、行った看護実践の意味や課題を明確にする。			

授業計画

回	担当	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	文献 1	看護研究の意義と目的	研究とは なぜ看護の研究が必要なのか 「研究の問い」の形成	講義 グループワーク
2	文献 2	看護研究の方法	研究の問いと研究のデザイン 帰納的研究と演繹的研究 質的研究と量的研究	講義
3	文献 3	文献検索の方法と実際	文献検索の意義と方法 文献検索の実際	講義 情報処理室 図書室
4	文献 4		文献の読み方 文献の整理法 * 文献カードを作成してみる	
5	文献 5	研究プロセス	研究のプロセス 研究方法とデータ収集方法 研究計画書と作成方法	講義
6	文献 6	研究における倫理的配慮	看護研究における倫理的配慮とは 倫理原則 説明と同意	講義
		看護研究の現状と将来	現状と今後の発展への課題 看護学学術団体と学会活動	
7	文献 7	クリティーク	文献クリティークの実践①	講義 グループワーク
8	文献 8	クリティーク	文献クリティークの実践②	講義 グループワーク

9	ケース 1	ケースレポート	作成に向けてのオリエンテーション① (45 分間)	講義
10	ケース 2	ケースレポート	ケースレポート作成②	演習
11	ケース 3	ケースレポート	卒業論文発表聴講③	講義
12	ケース 4	ケースレポート	ケースレポート作成④	演習
13	ケース 5	ケースレポート	ケースレポート作成⑤	演習
14	ケース 6	ケースレポート	発表⑥	演習
15	ケース 7	ケースレポート	発表⑦	演習
16		筆記試験	内容:看護研究基礎知識(45 分間)	

【成績評価の方法】

【文献】筆記試験・レポート等 50% 【ケース】ケースレポート 50% 計 100 点満点

【テキスト・参考文献など】

坂下玲子・宮芝智子・小野博史:看護研究第 2 版, 系統看護学講座別巻, 医学書院, 2023.

参考文献 ・黒田裕子:黒田裕子の看護研究 step by step 第 4 版、医学書院, 2012.

・松木光子編集:看護学概論 ヌーヴェルヒロカワ

・山崎茂明:看護研究のための文献検索ガイド 第4版, 日本看護協会出版会, 2010.

・南裕子:看護における研究第 2 版, 日本看護協会出版会, 2017.

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	症状別看護
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	2 年生 4 月～6 月
授業のねらい・目標			
対象が示す症状の誘因・原因や身体の解剖生理の変化を理解し、その症状に対する治療を理解した上で、身体や生活の成り行きを踏まえた援助の必要性と方法を考え、述べることができるようになる。			

授業計画

回	テーマ	内容	授業方法
1	症状に対する考え方、 症状の成り立ちを考える	症状別看護の考え方 「発熱」について	講義
2	症状別看護について 調べまとめる	各症状別の定義、メカニズム、原因・誘因、 症状の成り行き、治療、援助について 調べる	個人学習
3	症状別看護について 調べまとめる	各症状別の定義、メカニズム、原因・誘因、 症状の成り行き、治療、援助について 調べる	個人学習
4	症状別看護について 調べまとめる	個人学習で調べまとめた内容をもとに 事例の看護についてグループで話し合う	グループ ワーク
5	症状別看護について 調べまとめる	事例の看護について 分かりやすく説明する方法を考え、準備する	グループ ワーク
6	症状別看護について 述べる	各症状別の事例の看護について 他グループメンバーに発表する	発表
7	症状別看護について 理解する	学習のまとめ	講義
8	試験	筆記試験（45分）	

1. 悪心・嘔吐、2. 吐血・下血、3. 黄疸、4. 便秘、5. 呼吸困難、6. 意識障害、7. 浮腫、8. 脱水
 ・上記8項目について個人学習を行い、それぞれの症状別看護について調べまとめる。
 ・個人学習の内容をもとに、グループで紙上事例課題に取り組み、発表する。

【成績評価の方法】

筆記試験:50 点、課題提出:50 点(課題の評価視点については別紙参照)

欠課時間 1 時間につき 1 点減点とする

【テキスト・参考文献など】

テキスト:看護過程に沿った対象看護 (学研)

【受講者へ要望、留意事項等】

- ・臨床場面で活用できるよう、解剖生理の知識と関連付けて積極的に学習してください。
- ・他のグループメンバーが発表した症状別看護についても学びを共有することを意識して取り組んでください。

分 野	専門分野	科目名	診療に伴う援助技術
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 4 月～2 月
授業のねらい・目標			
診療の目的を理解し、診療に伴う患者の心理や苦痛を考え看護の役割を理解する。 安全で安楽な援助技術を身につける。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	救急法	心肺蘇生とは BLS（一時救命法）、AED について 演習（モデル人形を使用した心肺蘇生を実践する）	講義演習
2	包帯法	包帯法の目的・種類 静脈血栓予防について	講義
3		止血方法 包帯の実際	演習
4	創傷管理	褥瘡発生の要因 予防と処置	講義
5		褥瘡予防の実際	演習
6	吸引・吸入	酸素療法 噴霧吸入について	講義
7		吸引とは 排痰法	講義
8		一時吸引の実際	演習
9			
10	検査（採血）	検体検査とは 静脈血採血の目的・方法・留意事項について	講義
11		デモンストレーション 静脈血採血の実施	演習
12		静脈血採血の実施	演習
13		静脈血採血技術チェック	演習
14	輸血	輸血について	講義
15	試験	筆記試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 救急法 5 点、包帯法 10 点、創傷管理 10 点、吸引・吸入 20 点
 検査（採血）50 点、輸血 5 点

【テキスト・参考文献など】

基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院

【授業評価】

全授業終了後記載

分 野	専門分野	科目名	地域・在宅援助論 I
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年 時期	2 年生 5 月～7 月

授業のねらい

地域で生活する人々の生活や療養に必要な社会資源や地域包括ケアシステム等を推進する力を養う。
訪問看護の制度について理解する。

目標：①地域の暮らしを深く理解すること ②自助を支える健康支援を理解すること
③互助組織の実態を理解すること

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	在宅療養を支える看護	在宅看護の提供の場 在宅看護における看護師の活動 地域包括ケアシステム 生活の場に応じた看護と提供サービス	講義
2	在宅ケアを支える制度と社会資源①	地域ケアを支える社会資源の活用① 介護保険制度	講義
3	在宅ケアを支える制度と社会資源②	地域ケアを支える社会資源の活用②	講義
4	在宅ケアを支える制度と社会資源③	地域ケアを支える社会資源の活用③	講義
5	在宅ケアを支える訪問看護①	在宅看護を支える制度 訪問看護ステーションの仕組み	講義
6	在宅ケアを支える訪問看護②	在宅看護を支える制度 継続看護(退院調整、退院支援)	講義
7	在宅ケアを支える	在宅ケアにおける多職種の連携・協働	講義
8		試験	

【評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版

【受講者へ要望、留意事項等】

グループワークでは、メンバーとの協力や活発な意見交換の場にすること

*実務経験のある教員などによる授業科目である。

2026 年度 日鋼記念看護学校 55

分野	専門分野	科目名	地域・在宅援助論Ⅱ
		単位・時間数	2 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 9 月～翌 2 月

授業のねらい・目標

在宅看護に必要な面接・相談技術などについて学ぶ

在宅看護の対象である在宅療養者とその家族の生活に応じた看護を展開するために、各看護学領域や基礎・専門分野で学んだ知識・基礎看護技術を統合し、生活の場に応じた看護技術を学ぶ

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	在宅における日常生活援助の考え方	在宅療養者の日常生活におけるアセスメントの視点と援助	講義
2		在宅療養者の日常生活援助技術 家庭にあるものを活用した清潔の援助	実技
3	医療処置管理の支援・看護	在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法	講義・個人学習
4		排泄ケア（膀胱留置カテーテル、人工肛門、褥瘡）	発表
5	在宅でのケアマネジメント	在宅酸素療法、人工呼吸器	講義
6		感染管理、服薬指導	講義
7		介護支援専門員とケアマネジメント 事例からケアプランを考える	講義・個人学習 グループワーク
8		事例からケアプランを考える	発表
9	初回訪問に向けて	訪問時のマナー、日常生活支援、援助 事例をもとに援助の実際を考える	講義
10		グループワーク	グループワーク
11		グループワーク	グループワーク
12		発表	ロールプレイ
13		発表	ロールプレイ
14	在宅ターミナルケア	ターミナル期の対象と家族のケア	講義・DVD
15	試験	試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケアメディカ出版

【受講者へ要望、留意事項等】

グループワークでは、メンバーとの協力や活発な意見交換の場にすること

分 野	専門分野	科目名	成人援助論 I
		単位・時間数	1単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 4 月～10 月
授業のねらい・目標			
健康障害からの回復を促進するための看護を学ぶ。身体防御機能障害、感覚機能障害、排泄機能障害、呼吸・循環機能障害、運動機能障害のある患者の看護を学ぶ。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	排泄機能障害をもつ人の看護	排泄機能障害をもつ人の看護①	講義
2		排泄機能障害をもつ人の看護②	
3	感覚機能障害をもつ人の看護	感覚機能障害をもつ人の看護	講義
4	身体防御機能障害をもつ人の看護	身体防御機能障害をもつ人の看護①	講義
5		身体防御機能障害をもつ人の看護②	
6	身体防御機能障害をもつ人の看護	身体防御機能障害をもつ人の看護③	講義
7	運動機能障害をもつ人の看護	運動機能障害をもつ人の看護①	講義
8		運動機能障害をもつ人の看護②	
9		運動機能障害をもつ人の看護③	
10	呼吸機能障害をもつ人の看護	呼吸機能障害をもつ人の看護①	講義
11		呼吸機能障害をもつ人の看護②	
12	循環機能障害をもつ人の看護	循環機能障害をもつ人の看護①	講義
13		循環機能障害をもつ人の看護②	
14		循環機能障害をもつ人の看護③	
15		筆記試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

医学書院：系看護専門 成人看護学[2・3・4・8・14] 標準 22[成人看護学運動器系]

【受講者へ要望、留意事項等】

テキストは毎回準備すること

分 野	専門分野	科目名	成人援助論Ⅱ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 10 月～翌 2 月

授業のねらい・目標

慢性的な経過をたどる患者・家族の特徴を理解し、セルフケアの視点から生活の再調整を促すための看護を学ぶ。

脳神経機能障害、代謝機能障害、内部環境調整機能障害、性・生殖機能障害のある患者の看護を学ぶ。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	性・生殖機能障害	女性生殖器疾患患者の理解と看護の役割	講義
2		子宮筋腫 卵巣のう腫 更年期障害、性感染症の看護	講義
3		子宮体がん・頸がん 手術療法・化学療法の看護	講義
4	脳神経機能障害	脳神経疾患患者の看護①	講義
5		脳神経疾患患者の看護②	講義
6		脳神経疾患患者の看護③	講義
7		脳神経疾患患者の看護④	講義
8	代謝機能障害	糖尿病患者の看護① 疾患と症状	講義
9		糖尿病患者の看護② 食事療法	講義
10		糖尿病患者の看護③ 薬物療法	講義
11		糖尿病患者の看護④ 運動療法 シックデイ	講義
12		糖尿病患者の看護⑤ 心理面のケア フットケア	講義
13	内部環境調整機能障害	透析療法を受ける患者の看護 ①	講義
14		透析療法を受ける患者の看護 ②	講義
15		筆記試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 90分間(時間内) 配点: 性・生殖系看護 20 点 脳神経系看護 30 点
代謝系看護 30 点 内部環境調整(透析療法)看護 20 点

【テキスト・参考文献など】

医学書院 成人看護学 9 女性生殖器 成人看護学 7 脳神経 成人看護学 6 内分泌・代謝
成人看護学 8 腎・泌尿器

分 野	専門分野	科目名 単位・時間数	成人援助論Ⅲ 1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 7 月～10 月
授業のねらい・目標 周手術期にある対象の身体的・心理的状态を把握し、援助方法を学ぶ			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	総論	手術を受ける患者の看護① 周手術期看護	講義 DVD
2	総論	手術を受ける患者の看護② 術前看護（手術前オリエンテーション、術前訓練・処置）	講義 DVD
3	総論	手術を受ける患者の看護③④ 術後合併症とは、術後合併症の原因・誘因、予防ための援助について	GW 講義
4			
5	総論	手術を受ける患者の看護⑤ 手術が及ぼすストレス、手術侵襲と生体反応	講義
6	総論	手術を受ける患者の看護⑥ 術後看護（術後フィジカルセサメント、回復のための援助）	講義
7	各論	手術を受ける患者の看護① 胃切除術	講義
8	各論	手術を受ける患者の看護② 食道、肝・胆・膵	講義
9	各論	手術を受ける患者の看護③ ストーマ造設患者の看護・リハビリテーション	講義
10	各論	手術を受ける患者の看護④ 乳房切除術、肺切除術	講義
11	各論	生命維持を必要とする患者の看護① 救急看護	講義
12	各論	生命維持を必要とする患者の看護② 重症集中治療における看護の概念と役割・ICU の管理	講義
13	各論	生命維持を必要とする患者の看護③ 重症集中治療における看護の実際	講義
14	各論	周手術期の看護① 手術前看護	講義
15	各論	周手術期の看護② 手術中・手術後の看護	講義
		筆記試験	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点満点

【テキスト・参考文献など】

系看 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
系看 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
改訂版 外科的療法を受ける患者の看護
各配布資料

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	成人看護演習
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 4 月～7 月
授業のねらい・目標 基礎看護技術の学習をふまえて、身体に直接影響をおよぼす看護技術を安全・安楽に実施するための方法を身につける。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	看護技術	バイタルサイン測定（上腕・足背）、各部位の動脈触知 聴診・視診の実際（胸部、腹部、瞳孔）	講義・演習 A
2	看護技術	〃	演習 A
3	看護技術	車椅子・ストレッチャーの移動・移送	講義・演習 A
4	看護技術	〃	演習 A
5	看護技術	経管栄養法・胃瘻の実際	講義・演習 B
6	看護技術	〃	演習 B
7	看護技術	関節可動域（ROM）、徒手筋力テスト（MMT）の実際	講義・演習 A
8	看護技術	〃	演習 A
9	看護技術	中心静脈カテーテル・C V ポートの知識と管理 輸液ポンプ・シリンジポンプの実際	講義・演習 B
10	看護技術	〃	演習 B
11	看護技術	胸腔ドレーン管理と低圧持続吸引器の実際 各種ドレーン管理	講義・演習 B
12	看護技術	〃	演習 B
13	看護技術	心電図モニターの取り付け方と測定	講義・演習 A
14	看護技術	〃	演習 A
15		筆記試験	

【成績評価の方法】

- ・ 講義前の課題、講義後のミニテスト、筆記試験（試験日未定）で評価します。
- ・ 身だしなみが整っていない場合は、1 講義につき 1 点減点します。

【テキスト・参考文献など】

- ・ 「新訂版 写真でわかる 看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス」インターメディカ
- ・ 「看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 急性・クリティカルケア看護 第3版」メヂカルフレンド社
- ・ 講義内容に合わせて基礎看護技術のテキストや資料を準備してください。

【留意事項】

- ・ 演習 A は T シャツ・ジャージ等の動きやすいスタイルで、演習 B はユニフォームを着用してください。いずれも身だしなみを整えて出席してください。

分 野	専門分野	科目名	緩和ケア論
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 10 月～2 月

授業のねらい・目標

終末期にある患者と家族の特徴を理解し人生最期のときを意義あるものにできるよう支える看護の役割を学ぶ。

1. 緩和ケアの定義を理解する。
2. 症状マネジメントの概念とモデルを理解する
3. がん患者が呈する各症状の概念と特徴、発症のメカニズム、治療法、援助について理解する。
4. 人の尊厳を尊重した生活の維持について理解を深める。

授業計画

回	テーマ	授業内容	方法
1	緩和ケアの歴史 症状マネジメント	インフォームドコンセント、チーム医療、 主要な身体症状のマネジメント	講義
2	緩和ケアと倫理的課 題	緩和ケアにおける倫理的問題、意思決定支援 ・社会的ケア	講義
3	緩和ケアと看護	スピリチュアルケア、家族ケア	講義
4	看護の実際	日常生活を整える看護介入 がん性疼痛看護	講義
5	症状マネジメントと ケア	身体症状のマネジメントとケア	講義
6	事例検討	終末期看護・緩和ケアに関する演習①	講義 グループワーク
7	事例検討	終末期看護・緩和ケアに関する演習②	グループワーク
8	事例検討	終末期看護・緩和ケアに関する演習③	グループワーク
9	事例検討	終末期看護・緩和ケアに関する演習④	グループワーク
10	事例検討	終末期看護・緩和ケアに関する演習⑤(45 分)	グループワーク
11	事例検討	終末期看護・緩和ケアに関する演習⑥	発表
12	事例検討	終末期看護・緩和ケアに関する演習⑦	発表
13	音楽療法	音楽療法の実際	演習
14	音楽療法	音楽療法の実際	演習
15	試験	筆記試験 (45 分)	

【成績評価の方法】

筆記試験 45 分間 60 点

演習 40 点、(発表 レポート評価を含む)

【テキスト・参考文献など】

緩和ケア メディカ出版

【受講者へ要望、留意事項等】

- ・ 授業に出席して終わりではなく、3 年次の緩和ケア実習につながる学習であることを意識して臨んで欲しい。
- ・ 演習の詳細については授業で説明します。
- ・ 演習の参加姿勢（積極性、発表態度、質疑応答など）も評価に含みます。

分野	基礎 専門基礎 専門	科目名	緩和ケア技術
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	2 年生 9 月～2 月
授業のねらい・目標 緩和ケアについて理解を深め、状況に合わせた適切なケアを行うことができる技術を学ぶ。 1) 温電法、冷電法の意義・目的を知り、実際の援助を習得する。 2) リラクゼーション法を学び実際に体験し、意義を学ぶ。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	
1	電法とタクティールケアの意義・目的	電法の意義 タクティールケアの意義・目的 (アロマセラピーの基礎・意義・禁忌)	講義
2	冷電法	電法の実践 (冷電法)	演習
3	温電法	電法の実践 (温電法)	演習
4	リラクゼーション	タクティールケアの実施	演習
5	緩和ケアにおける苦痛を緩和する技術	傾聴の技術① 積極的傾聴、反復方法	講義
6		傾聴の技術② 患者の心理を理解するコミュニケーション	講義
7		リンパ浮腫とそのケア	演習
8	試験	筆記試験 (1h)	

【成績評価の方法】

- ・筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

- ・基礎看護技術Ⅱ 系統看護学講座
- ・必要時資料配布

【受講者への要望、留意事項等】

- ・ 物品準備、後始末をしっかりと行いましょう。
- ・ 実習室で行う場合は身だしなみを整えて参加してください。

分 野	専門分野	科目名	老年援助論Ⅱ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 8 月～ 2 月

授業のねらい・目標

1. 様々な健康状態や受療状況に応じた高齢者とその家族に対する看護の役割を理解する。
2. 多様な生活の場における高齢者の生活状況を知り、看護の役割を理解する。
3. 認知症高齢者の現状を知り、看護の役割を理解する。

授業計画

回/時間	テーマ	授業内容	授業方法
1	認知症高齢者の看護	高齢者の特徴、認知症の基本的知識	講義
2	特別養護老人ホームで生活する高齢者の生活状況や施設の役割	特別養護老人ホーム「エンルムハイツ」での活動を通して	講義
3	認知症高齢者の看護	認知症について、援助のポイント①	講義
4	認知症高齢者の看護	認知症について、援助のポイント②	講義
5	認知症高齢者の看護	療養病床における認知症高齢者への援助の実際①	講義
6		療養病床における認知症高齢者への援助の実際②	講義
7	介護老人保健施設における看護の役割	介護老人保健施設の特徴と看護の役割①	講義
8		介護老人保健施設の特徴と看護の役割②	講義
9	治療・処置を受ける高齢者の看護	入院生活への援助	講義
10		検査を受ける高齢者の看護	講義
11		薬物療法を受ける高齢者の看護	講義
12		手術療法を受ける高齢者の看護	講義
13		終末期にある高齢者の看護	講義
14		退院に向けての援助	講義
15	試験		

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

高齢者の健康と障害 老年看護学① メディカ出版

高齢者看護の実践 老年看護② メディカ出版

ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程, 第2版, 医歯薬出版株式会社

分 野	基礎	専門基礎	専門	科目名	老年看護演習
				単位・時間数	1 単位 30 時間
				開講学年・時期	2 年次 4 月～ 9 月
世界に類をみない少子超高齢社会にある日本では、高齢者ケアのニーズの増大、高齢者単身世帯の増加、認知症高齢者の増加が見込まれている。高齢者の特性から高齢者看護をとらえると、変化と多様性への対応が必要となります。ある人は病院で治療を受け、ある人は自宅、あるいは施設で療養します。看護を必要とする高齢者はさまざまな場にあります。 高齢者をとりまく社会制度と、それに関連して看護に求められる役割は大きくなっています。健康レベルの多様な水準と場の広がりに対応できる能力が求められています。 8 回目からは事例を用いて看護過程の展開を予定しています。成人・老年看護学実習Ⅱに向けて自分の課題を克服できるように学びを深めてください。					

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	高齢者の理解の基本となる概念	高齢者の特徴と理解	講義、
2	高齢者の生活	高齢者の生活と家族 高齢者の機能と評価	講義、
3	高齢者と家族	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	講義
4	高齢者を支える制度と施策	介護保険制度、成年後見制度、権利擁護 高齢者の医療の確保に関する法律	講義
5	高齢者を支える社会資源	高齢者の生活の場としての社会資源	講義
6	老年看護の基本	老年看護に用いられる概念・モデル・理論	講義
7	老年看護	老年看護の役割・老年看護の理念・目標・原則 高齢者の看護過程	講義
8	演習	健康障害のある高齢者の看護（看護過程の展開①） ・事例説明、情報の整理	課題学習 （個人学習）
9	演習	健康障害のある高齢者の看護（看護過程の展開②） ・情報の整理、アセスメント	課題学習 （個人学習）
10	演習	健康障害のある高齢者の看護（看護過程の展開③） ・情報の整理、アセスメント	課題学習 （個人学習）
11	演習	健康障害のある高齢者の看護（看護過程の展開④） ・アセスメント、関連図、具体策	課題学習 （個人学習）
12	演習	健康障害のある高齢者の看護（看護過程の展開⑤） ・アセスメント、関連図、具体策	課題学習 （個人学習）
13	演習	健康障害のある高齢者の看護（看護過程の展開⑥）	発表
14	演習	健康障害のある高齢者の看護（看護過程の展開⑦）	発表
15	試験	筆記試験	

【成績評価の方法】

筆記試験と課題提出で合計 80 点（筆記試験は 6 割以上が合格の必修条件）

演習評価 20 点

【テキスト・参考文献など】

高齢者の健康と障害 老年看護学① メディカ出版 国民衛生の動向

高齢者看護の実践 老年看護学② メディカ出版

【受講者へ要望、留意事項等】

必要に応じて確認テスト、調べ学習をとりいれます。

演習の記録物は期日と方法を守り提出してください。（期日と方法は評価の対象です）

参加姿勢は評価にも含みます。

（出席点：欠課時間 3 時間以上－3 点、2 時間－2 点、1 時間－1 点）

分 野	基礎	専門基礎	専門	科目名 単位・時間数	小児援助論（医師担当） 14 時間（2 単位 45 時間）
				開講学年・時期	2 年生 9 月～11 月
授業のねらい・目標 小児に特徴的な疾患・症状・治療を理解する。					

授業計画

回	授業内容	授業方法
1	小児総論 救急医療	講義
2	新生児・低出生体重児、染色体	講義
3	消化器、代謝疾患	講義
4	血液悪性腫瘍、免疫アレルギー	講義
5	循環器疾患・呼吸器疾患	講義
6	内分泌、神経	講義
7	腎泌尿器疾患・感染症	講義

【成績評価の方法】

筆記試験 配点 40 点 （看護とあわせて 100 点満点）

【テキスト・参考文献など】

医学書院 小児臨床看護各論

分野	専門分野	科目名・単位・時間数	小児援助論 2 単位 45 時間
		開講学年・時期	2 年生 6 月～2 月
授業のねらい・学習目標			
既習した小児看護学概論を想起させながら、発達段階各期にみられる代表的な健康障害を取り上げ、実際の看護をイメージしながら、発達段階・健康問題に沿った必要な看護を考え、3 年次の小児看護実習に生かす基礎的能力を養う。			
＜学習目標＞			
健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する			
小児の健康状態・発達段階に応じた看護の方法を理解する			
健康障害をもつ小児と家族の問題解決のプロセスを理解する			
健康障害をもつ小児と家族に必要なコミュニケーション技術を理解する			

授業計画 (医師担当 1～7 回)

回	授業内容 (看護)
8	病気・障害を持つ子どもと家族の看護
9	小児看護におけるコミュニケーション 検査・処置を受ける子どもの看護
10	急性期にある子どもと家族の看護 看護過程①
11	急性期にある子どもと家族の看護 看護過程②
12	急性期にある子どもと家族の看護 看護過程③
13	急性期にある子どもと家族の看護 看護過程④
14	回復期にある子どもと家族の看護 看護過程⑤
15	手術を受ける小児と家族の看護 痛みのある小児と家族の看護
16	感染予防の必要がある小児と家族の看護 隔離が必要な小児の看護
17	新生児期の看護 低出生体重児の看護
18	救急処置を要する小児と家族の看護 おもな事故・外傷と看護 災害時の子どもと家族の看護
19	外来における子どもと家族の看護 障害のある子どもと家族の看護
20	家庭で療養している慢性疾患のある小児と家族の看護 在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族の看護
21	終末期の子どもと家族の看護
22	まとめ (45 分)
23	試験

【成績評価の方法】

筆記試験は、看護（配点 60 点）、医師 疾患（配点 40 点）と合計する

【テキスト・参考文献など】

系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院

【受講者へ要望、留意事項等】

外部講師の講義があり、準備の手助けや集合時間の厳守など社会人として協力して欲しい。

分 野	基礎 専門基礎 専門分野	科目名	母性援助論 I
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 6 月～9 月

授業のねらい目標：

1. 妊娠・分娩・産褥および新生児の生理的变化や経過について理解し、母子と家族への看護を学ぶ。
2. 妊娠・分娩・産褥・新生児はすべて関わりあいがあり、影響していることを意識して欲しい。

授業計画

回		授業内容	方法
1	周産期にある人と家族の看護	妊娠期の看護 1 妊娠期における看護師の役割、妊娠の生理（妊娠に関する定義、妊娠の成立、胎児の成長、妊娠に伴う母体の変化）妊婦と胎児のアセスメント	講義
2		妊娠期の看護 2 妊娠期の健康維持のためのセルフアセスメント、出産と育児の準備のための看護	講義
3		経過の理解と看護 1（産褥経過） 産褥の生理・生殖器の変化・褥婦のアセスメントと看護 退行性変化と進行性変化、褥婦の心理社会的変化	講義
4		経過の理解と看護 2（新生児の特徴） 新生児の生理とアセスメント（呼吸器系、循環器系、体温調節、消化器系、水・電解質バランス、ビリルビン代謝と黄疸、など）	講義
5. 6		分娩期の看護 1. 2 分娩の生理（分娩に関する定義、分娩の三要素、分娩の経過）産婦と胎児のアセスメント、産婦のニーズと看護、胎児心拍陣痛図の基本的見方（胎児心拍数基線、胎児心拍数基線細変動、一過性頻脈、陣痛周期）	講義
7		出生直後の新生児への看護 LDR 室の環境と看護 出生直後の新生児への看護、バースレビュー、24 時間以降から退院に向けた病棟での看護ケア（先天代謝異常検査、K 2 シロップ投与方法、新生児の採血方法など）分娩準備と LDR 室の環境と看護	講義
8. 9		産褥期の看護 1. 2 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護、親になることへの看護、母乳育児と看護（乳頭・乳房のトラブルとケア）、実際の病棟での看護（母児同室指導、授乳指導、退院指導、EPDS の活用など） 2 週間健診の取り組み、母乳育児外来、電話訪問、新生児訪問について	講義
10		経過の理解と看護 3 確認テスト	
11		妊婦の異常 1 異所性妊娠・流産・早産・悪阻・血液不適合妊娠、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病など	講義
12		妊婦の異常 2 妊婦と感染症（トキソプラズマ症、風疹、サイトメガロウィルス感	講義

		染症、クラミジア感染症、単純ヘルペスウイルス感染症、B型肝炎、成人T細胞白血病)、出生前診断、羊水量の異常、胎児機能不全	
13		分娩期の異常 児頭骨盤不均娩出力の異常（微弱陣痛、遷延分娩、過強陣痛）、前置胎盤・常位胎盤早期剥離と産科出血の対応	講義
14		周産期の異常と看護 1 子宮復古不全・弛緩出血・産褥熱・深部静脈血栓と看護、帝王切開を受けた褥婦の看護、産後うつ	講義
15		周産期の異常と看護 2 流産・死産後の女性と家族への看護、先天異常・障害をもつ新生児の家族へのケア（病棟での実際の取り組みなど） 糖尿病母体から生まれる新生児と看護、光線療法を受ける新生児の看護	講義

【成績評価の方法】 筆記試験 100 点満点 (90 分間 時間外)

配点： 医師：20 点

臨床助産師：35 点

【分娩 10 点 出生直後・LDR 5 点 産褥の看護・周産期の異常と看護 2 20 点】

専任教員：45 点

【妊娠 20 点 新生児の特徴 5 点 産褥経過・周産期の異常と看護 1 20 点 】

【テキスト・参考文献など】

ナースিং・グラフィカ母性看護実践の基本 母性看護学② 改訂

MED I C MED I A 病気がみえる vol.10

専門分野	科目名	母性援助論Ⅱ
	単位・時間数	1 単位 15 時間
	開講学年・時期	2 年生 12 月～翌 2 月
授業のねらい・目標：母子の紙面事例を使い看護過程の展開方法を学ぶ。母性看護は経過が正常に経過しているのかを判断し、正常に経過できるよう援助することが求められる。そのため、ウェルネス志向型のアセスメント方法について理解すること、対象がより良く経過するためのセルフケア行動がとれる援助について学ぶ。母子の健康は互いに影響しあっていることや、妊娠・分娩・産褥の連続性についても意識して援助を考えてほしい。 学習到達目標 1. ウェルネス志向型のアセスメントが理解できる。 2. 妊娠・分娩・産褥の連続性と関連性を考えることができる。 3. ウェルネス志向型の目標を考える事ができる。 4. セルフケア行動を促す援助方法について考えることができる。 5. 母親の意思を尊重した援助について考えることができる。		
回	授業内容	方法・備考
1	全体ガイダンス 援助計画作成（個人）	講義 学習の進め方、事例紹介、援助計画の書き方の説明、事例を理解するための課題学習、USB 持参、
2	保健指導計画	演習 援助計画をもとに保健指導計画をグループで作成する。 授業前までに援助計画提出（評価あり）
3	ポスター作成	演習 グループ毎にポスター作製。 授業前までに課題提出（評価あり）
4	保健指導練習	演習 グループ毎に保健指導の実施（練習）
5	保健指導発表①・カンファレンス	演習 前半グループの保健指導実施①終了後に意見交換
6	保健指導発表②・カンファレンス	演習 後半グループの保健指導実施②
7	母性看護過程の特徴について	講義 ウェルネス志向型アセスメント、セルフケアを促す援助方法、レポート作成（評価あり）
8	筆記試験（80 点分）（4 5 分）	

【成績評価の方法】

演習の参加態度・提出物 20 点 + 筆記試験 80 点 = 100 点

1) 演習の参加態度の評価視点

	20 点（各 10 点）	10 点（各 5 点）	0 点
参加態度	効果的な学習になるよう積極的に参加している。	時々無駄話が聞かれる。	授業に参加せず、他のことをしている。 居眠り
提出物	期限を守り、空欄や不足・不備がない。	1 回の遅れがあった。又は空欄 や不足・不備のまま提出。	2 回以上の遅れ。 又は、空欄や不足・不備が目立つ。

※提出期限が出席停止や特別休暇の場合は、登校可能日の出席確認時間前に提出すること

2) 【テキスト・参考文献など】

ナーシング・グラフィカ 母性看護実践の基本 母性看護学② ・ 母性看護技術 母性看護学③、
メデックメディア：病気がみえる 10 産科

分 野	専門分野	科目名	精神援助論
		単位・時間数	2 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 10 月～翌 2 月

授業のねらい・目標

1. 精神障害の現れ方の特徴と、主な精神疾患の原因・診断・治療を理解する
2. 精神科医療・看護、精神に障害をもつ対象への理解を深める

授業計画

回	テーマ	授業内容	方法
1	精神疾患・ 障害の診断 と治療	統合失調症	講義
2		精神症状と精神疾患	講義
3		不安・気分障害	講義
4		物質関連障害	講義
5		パーソナリティ障害 発達障害	講義
6 (看護 1)	精神医療の 歴史と看護	精神医療の歴史と看護 精神保健医療福祉をめぐる法律	講義
7 (看護 2)	看護の倫理 と人権擁護	精神保健医療福祉をめぐる法律 看護の倫理と人権擁護	講義
8 (看護 3)		看護の倫理と人権擁護	DVD 視聴 レポート
9 (看護 4)	精神科看護 の実践	・精神科看護における対象の理解 P164～175 ・服薬治療に関わる援助 P200～209	講義
10 (看護 5)		・統合失調症患者の看護の実際 P39～44	講義
11 (看護 6)		・抑うつ障害と双極性障害の患者の看護の実際 P45～53	講義
12 (看護 7)		看護の実際 ・発達障害 P29～38 ・不安障害 P54～58 ・強迫性障害 P59～62 ・物質関連障害 P89～95 ・パーソナリティ障害 P105～107	講義
13 (看護 8)		精神科看護におけるケアの方法 ・治療的関わりの考え方 P178～184 ・日常生活行動の援助 P185～199 入院環境と治療的アプローチ ・治療の場としての精神科病棟 P212～220 ・治療的環境を整える P221～225	講義
14 (PSW)		「地域で暮らす」を支える ・地域生活を支える社会資源の活用 P246～262	講義
15		筆記試験	

【成績評価の方法】 筆記試験 100 点（医師 50 点、看護 50 点（9～14 講師 40 点、専任教員 10 点）

【テキスト・参考文献など】 メディカ出版 ①情緒発達と精神看護の基本 ②精神障害と看護の実践

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	統合技術演習Ⅱ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2年生 6 月～12 月

授業のねらい・目標

「看護の統合と実践」は基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した知識や技術を統合し看護実践力を強化することをねらいに設定された。統合技術演習Ⅰでは、2 年次までに講義、演習、実習で学習した内容をふまえて、対象の状態を考慮した援助や安全な援助ができる力を高めることを目的とする。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	看護技術	看護技術計画の立案	グループワーク
2		看護技術演習①	演習
3		看護技術演習①	演習
4		看護技術計画の修正	グループワーク
5		看護技術演習②	演習
6		看護技術演習②	演習
7		まとめ	グループワーク 発表
8	説明の技術	説明の技術 ・事例をもとに説明の実際を考える	講義 グループワーク
9		説明の技術 ・事例をもとに説明の実際を考える	発表
10	日常生活援助における安全	日常生活動作の事例を基にヒヤリ・ハットの検討 (KYT)	講義 グループワーク
11		実習中のヒヤリ・ハット体験を検討 (KYT)	グループワーク
12		実習中のヒヤリ・ハット体験を検討 (KYT)	グループワーク
13		事例をもとにロールプレイ、意見交換	ロールプレイ
14		事例をもとにロールプレイ、意見交換	ロールプレイ
15	試験	筆記試験	

【成績評価の方法】

説明の技術(10 点):レポート状況での評価

看護技術(40 点):実技試験

日常生活援助における安全(50 点):筆記テスト(30 点)、レポート点・演習課題の提出・参加状況(20 点)

【テキスト・参考文献など】

必要時資料配布

10～15 回目:基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ

【授業評価】 授業終了後記載

分 野	専門分野	科目名	地域・在宅看護実習Ⅰ
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	2 年生 6 月～ 9 月

授業のねらい・目標
1. 地域で生活している人々の実際を知る
2. 地域で生活しているさまざまな人々の暮らしや活動を支えるために、どのような支援があるか知る。
3. 地域での生活を知り、地域での暮らしについて考える。

授業計画

授 業 内 容	授 業 方 法 ・ 備 考
実習方法 1. 学内オリエンテーション 2. 学内実習:課題学習に取り組む 1)子ども食堂について 2)看護小規模多機能型介護について 3. 臨地実習:実習施設に学生5～6名で行き、施設での活動を見学し、職員と一緒に行動する。 1)子ども食堂に行き、職員とともに、一緒に行動し活動状況の実際を知る。 2)看護小規模多機能型介護施設での看護師の役割や、地域での活動の実際を知る。 4. 臨地実習後、実習のまとめと発表 1)臨地実習を振り返り、記録様式に沿って記載する。 2)実習を終えて地域で生活している人々を支援するためにはどのような支援があったらよいかをまとめる。 3)記録様式に沿って記載した内容を、発表し、意見交換をする。	実習

【成績評価の方法】

課題学習、臨地実習、レポート内容による総合評価

【テキスト・参考文献など】

テキスト:①地域療養を支えるケア②在宅療養を支える技術

【受講者へ要望、留意事項等】

課題学習が、臨地実習に結びつくように取り組むこと。

地域の人々を支える活動について理解を深めること。

分 野	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習 I
		単位・時間数	2 単位 90 時間
		開講学年	2 年生
授業のねらい・目標 実習目的 健康障害のある患者を理解し、回復を促進するための看護を学ぶ 実習目標 1. 健康障害のある患者を身体的・精神的・社会的な側面から理解する 2. 患者の症状やADLの低下が日常生活に及ぼす影響を理解する 3. 患者の回復を促進するために必要な援助ができる 4. 患者、家族と人間関係を成立させることができる 5. 看護チームの一員として行動できる			

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 1. 実習日数及び実習場 10 日間 日鋼記念病院、製鉄記念室蘭病院、JCHO 登別病院 大川原脳神経外科病院 2. グループ編成:1グループ 2 名～6 名とし、グループ編成する 3. 実習の進め方 1) 看護過程:学生 1 名に対し受持ち患者 1 名決め、看護過程を展開する。 2) 看護過程 ① 患者に関する情報収集をする。 ・身体に関する情報・飲食・排泄・睡眠と休息・清潔・活動と体位・その他 ② 主観的情報と客観的情報に整理する。 ③ 情報の意味を考える(アセスメント) ④ 関連図を用いて全体像を捉え、看護チームとして患者の看護問題を明らかにする (患者の日常生活・病態からの看護問題が捉えられる) ⑤ 援助を実施する ⑥ 看護計画を見直し、修正・追加しながら看護実践をしていく。 3) 看護技術 技術経験録に示されている技術を、可能な限り指導者と調整して繰り返し実施する。	実習

【成績評価の方法】

レポート、基礎知識・情報収集・アセスメント・看護問題の明確化、援助の実践、人間関係、実習記録、情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【受講者へ要望、留意事項等】

自己の課題と目標を設定する。実習に向けて事前・関連学習を行うこと。テキスト、参考文献、講義資料をもとに準備すること。

分 野	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ
		単位・時間数	2 単位 90 時間
		開講学年	2 年生
授業のねらい・目標 実習目的 健康障害のある患者を理解し、疾病の悪化や合併症を防ぐための看護を学ぶ。 実習目標 1. 様々な健康障害のある患者を身体的・精神的・社会的な側面から理解する。 2. 様々な健康障害が患者に及ぼす影響について理解する。 3. 患者が必要とする援助(疾病の悪化や合併症を防ぐ援助)を実施する 4. 患者、家族と人間関係を成立させることができる 5. 看護チームの一員として行動できる			

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 1. 実習日数・実習場 10 日間 日鋼記念病院、製鉄記念室蘭病院、JCHO 登別病院 大川原脳神経外科病院 2. グループ編成:1グループ 2 名～6 名とし、グループ編成する 3. 実習の進め方 1) 学生 1 名に対し受け持ち患者 1 名に決め、看護過程を展開する。 2) 看護過程 ① 患者に関する情報収集をする。 ② 主観的情報と客観的情報に整理する。 ③ 情報の意味を考える(アセスメント) ④ 関連図を用いて全体像を捉え、看護問題を明らかにする ⑤ 看護計画を立案する ⑥ 援助を実施・評価する ⑦ 看護計画を見直し、修正等をしながら看護実践をしていく 3) 看護技術 技術経験録に示されている内容を可能な限り指導者と調整して見学実施する。 見学、実施できる看護技術は、経験の有無にかかわらず繰り返し積極的に調整をとり経験する。	実習

【成績評価の方法】

レポート、基礎知識・情報収集・アセスメント・看護問題の明確化、計画立案・援助と評価、人間関係、実習記録、情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【受講者へ要望、留意事項等】

自己の課題と目標を設定する。実習に向けて事前・関連学習を行うこと。テキスト、参考文献、講義資料をもとに準備すること。

分 野	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ
		単位・時間数	2 単位 90 時間
		開講学年	2 年生

授業のねらい・目標

実習目的 健康障害のある患者を理解し、疾病の悪化や合併症を防ぐための看護と、残存機能の維持拡大へ向けた援助が必要な患者の看護を学ぶ。

実習目標

1. 様々な健康障害のある患者を身体的・精神的・社会的な側面から理解する。
2. 様々な健康障害が患者に及ぼす影響について理解する。
3. 患者が必要とする援助(疾病の悪化や合併症を防ぐ援助・残存機能の維持拡大へ向けた援助)を実施する
4. 患者、家族と人間関係を成立させることができる
5. 看護チームの一員として行動できる

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 1. 実習日数及び実習場 10 日間 日鋼記念病院、製鉄記念室蘭病院、JCHO 登別病院 大川原脳神経外科病院 2. グループ編成:1グループ 2 名～6 名とし、グループ編成する 3. 実習の進め方 1) 学生 1 名に対し受け持ち患者 1 名に決め、看護過程を展開する。 2) 看護過程 ① 患者に関する情報収集をする。 ② 主観的情報と客観的情報に整理する。 ③ 情報の意味を考える(アセスメント) ④ 関連図を用いて全体像を捉え、看護問題を明らかにする ⑤ 看護計画を立案する ⑥ 援助を実施・評価する ⑦ 看護計画を見直し、修正等をしながら看護実践をしていく 3) 看護技術 技術経験録に示されている内容を可能な限り指導者と調整して見学実施する。 見学、実施できる看護技術は、経験の有無にかかわらず繰り返し積極的に調整をとり経験する。	実習

【成績評価の方法】

レポート、基礎知識・情報収集・アセスメント・看護問題の明確化、計画立案・援助と評価、人間関係、実習記録、情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【受講者へ要望、留意事項等】

自己の課題と目標を設定する。実習に向けて事前・関連学習を行うこと。テキスト、参考文献、講義資料をもとに準備すること。

分 野	基礎分野	科目名	生命倫理
		単位・時間数	1単位 15 時間
		開講学年	3 年生 4 月～5 月
授業のねらい・目標： 本講義では、生命倫理の基本概念を扱いつつ、医療現場で生じている諸問題を医学、哲学、社会学、法学といった様々な観点から分節し、問題の所在を明確化、実践を視野に入れ、医療従事者としてどう関わるべきかを主体的・批判的に考え行動することができるようになることがねらい。この目的を達成すべく、受講者の関心に沿い、その都度テーマを設定しなおすため内容が前後、内容変更することもある。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	導入1	ガイダンス1(ノートのとり方、話の聞き方)	講義
2	導入2	ガイダンス2(時間管理の工夫)	講義・演習
3	認識論	先入観の認識論的構造	講義・演習
4	倫理学へ	日常から医療へ	講義・演習
5	生命倫理の諸原則の検討	生命倫理の歴史(人体実験)	講義・演習
6	人工妊娠中絶	ヒトの生命はいつはじまるのか？ケーススタディ (母親の権利 / 胎児の権利)	講義・演習
7	臓器移植	臓器移植の現状： ケーススタディ	講義・演習
8	発表演習1	これまでのまとめ	講義・演習

【成績評価の方法】

授業態度・発表等(20%)、出席時の感想文(50%)、レポート等の課題(30%) 100 点満点

【テキスト・参考文献など】

講義中に必要に応じて指示します。

【受講者へ要望、留意事項等】

各回短い感想(＝リアクションペーパー他)を提出してもらいます(出欠確認、授業態度評価も含む)。

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	保健医療論
		単位・時間数	2 単位 30 時間
		開講学年	3 年生 4 月 ・ 9 月～11 月

授業のねらい・目標

- 人々の健康保持・増進のために個人・家族・地域の全体を捉えながら、保健医療福祉の役割と連携を理解する。
- 国際的視野をもつ意義を理解し、国際看護に関心を持つことができる。
- これまでの学習を統合し、専門職業人としての責務を認識する。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	医療の動向 医療職者に期待されること	医療の歴史と現状	講義
2		医療とは 社会保障 医療制度 社会医療法人の理念 医療安全	講義
3	国際看護	海外における看護活動の実際	講義
4		異文化理解と看護 看護の国際化	講義
5	感染対策	病院内感染対策の基礎 アウトブレイク	講義
6		感染対策の実際 個人防護具着脱方法の実際 パンデミック	講義
7	保健師の活動	西胆振地域位における保健師活動の実際①	講義
8		西胆振地域位における保健師活動の実際②	講義
9	家庭医療学	家庭医療概論	講義
10		行動変容と予防医療	講義
11		地域を包括した診療所看護師の役割①	講義
12		地域を包括した診療所看護師の役割②	講義
13		在宅医療①	講義
14		在宅医療②	講義
15	試験		

【成績評価の方法】

筆記試験 70 点(家庭医療学 50 点、感染対策 20 点)レポート 30 点(1・2 回目、3・4 回目、7・8 回目)

【テキスト・参考文献など】 資料

分 野	専門基礎分野	科目名	看護関係法規Ⅱ
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	3 年生 9 月～11 月
授業のねらい・目標 医療・看護に関する法規を理解し、医療者としての法的責任を認識する。 保健師・助産師・看護師・准看護師の定義および資格要件・業務に関する義務等について理解する。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	関係法規の概念 A 看護法	学ぶ意義 法の概念 衛生法の沿革 厚生行政のしくみ	講義
2	保健師助産師看護師法 ①	保健師助産師看護師法の沿革 定義 免許	講義
3	保健師助産師看護師法 ②	業務 国家試験 医療過誤	講義
4	保健師助産師看護師法 ③	看護業務と法的責任 看護師の業務と教育をめぐって(田村やよひ著)	講義 国家試験問題 (保助看法)
5	B 看護師等の人材確保の 促進に関する法律	目的 定義 看護師等の人材確保の促進について	講義 国家試験問題(人確法)
6	医療法 ①	目的 病院等の人員	講義
7	医療法 ②	医療法人について他	講義
8		筆記試験(45 分間)	

【成績評価の方法】

筆記試験 100 点

【テキスト・参考文献など】

健康支援と社会保障制度4 看護関係法令 医学書院

田村やよひ: 私たちの拠りどころ—保健師助産師看護師法—日本看護協会出版会

【受講者へ要望、留意事項等】

テキストおよび参考図書は必ず持参する

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	看護管理論
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年	3 年生 4 月～5 月 ・ 9 月～10 月

授業のねらい・目標

- ・ 看護管理の基本的考え方を理解し、看護業務を遂行するための役割と責任を認識する。
- ・ 医療安全に関する基本的考え方を理解し、事故を防ぐあるいは事故が起こったときの対策を考えることができる。
- ・ 看護職者個人および看護組織が担う役割を理解し、看護を発展させ、社会に貢献する役割を認識する。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	看護におけるマネジメント 看護マネジメントの概念	看護マネジメントの定義、看護組織と職務 組織経営と看護	講義
2	看護におけるマネジメント 医療・看護の質保証	医療・看護の質と指標、医療・看護の標準化とクリニカルパス、看護業務管理や 看護の交代勤務、看護業務基準、看護手順、看護制度や看護提供システム、 診療報酬制度 重症度、医療・看護必要度	講義
3	看護におけるマネジメント 保健医療の機能分析と連携	看護の専門性と多職種連携、継続看護や入・退院調整、地域包括ケアシステム	講義
4	看護におけるマネジメント 情報のマネジメント	医療情報の利活用、情報の公開、個人情報保護と管理、診療情報などの開 示、診療記録等の電子化と医療情報システム	講義
5	看護におけるマネジメント 人材育成・活用 看護政策と行政	継続教育やキャリア開発、認定・専門看護師の資格と活動、特定行為に係る看 護師の研修制度、看護師などの確保や就業継続・看護師等の届出制度、看護 師等の労働安全衛生、看護政策立案の過程、看護行政の組織と役割	講義
6	看護におけるマネジメント 看護業務マネジメント	看護業務の内容、組み立て方と時間管理、複数患者受け持ちのための情報収 集、夜間常の業務	講義
7	医療安全と看護 医療安全と看護の責務	医療安全と看護の責務 身体拘束	講義
8	医療安全と看護 事故発生のメカニズムと防止対策	事故発生のメカニズム 事故分析と対策	講義
9	医療安全と看護 組織での安全対策	医療安全管理室の役割 患者参加型の医療安全対策	講義
10	医療安全と看護 看護安全対策	看護安全対策	講義
11	医療制度と患者中心の医療	医療の質向上と医療機能評価	講義
12		看護師に必要な経営知識	講義
13		クレーム対応	講義
14	看護組織が担う役割	看護職能団体について 看護の質の向上、看護職が働き続けられる環境づくり 看護領域の開発・展開	講義
15	試験	筆記試験	

【成績評価の方法】 筆記試験 100 点：看護におけるマネジメント 40 点 医療安全と看護 30 点 医療制度と患者中心の医療 30 点

【テキスト・参考文献など】 茂野香おる他：看護学概論 医学書院（1～6 回） 医療安全 学研メディカル秀潤社（8～10 回）

資料（11～13 回）

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	災害看護
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	3 年生 9 月～12 月

授業のねらい・目標

日本は自然災害の多い国であり、近年を見ても多数の災害が発生している。病院に限らず看護師が必要とされる場合は多様性を求められている中、災害に関する基本的な知識、多職種との連携、災害時の看護師の役割はどのようなものなのかを学び、また被災地でも看護を提供できる人材の育成を目的とする。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	災害と倫理・概論	災害の定義・種類・状況・制度・支援システム	講義
2	被災者支援	災害と危機配慮を必要とした人への対応・心のケア	講義
3	災害各期の看護支援	災害初期～中長期の看護活動 災害時に必要な医療・看護技術	講義
4	災害看護演習	災害看護演習	演習
5	災害と地域性	災害の種類(復習)と地域性、災害各期の想定と看護支援・感染症対策、平常時と災害時の病院機能、多職種連携など	講義
6	災害時に必要な技術①	トリアージ概論 (一次・二次トリアージ・避難場所の立ち上げ)	講義
7		トリアージ演習	演習 グループワーク
8	災害時に必要な技術②	応急処置・搬送方法	講義
9		応急処置・搬送方法	演習
10	災害時の精神看護	被災者・支援者のストレスと心のケア(災害各期における要配慮者の支援・支援者への支援)	講義
11	机上訓練①	想定から傷病者の状態や救護所・避難所の状況を考える	グループワーク
12		想定から傷病者の状態や救護所・避難所の状況を考える	発表
13	机上訓練②	災害発生一か月後被災者・支援者の心理的ストレスの想定・支援を考える	グループワーク
14		災害発生一か月後被災者・支援者の心理的ストレスの想定・支援を考える	発表
15	試験	筆記試験	

【成績評価の方法】

- ・矢野(30 点):筆記テスト
- ・加藤:筆記テスト(40 点)、各演習課題レポートの提出(30 点)

【テキスト・参考文献など】

- ・看護学テキスト統合と実践 災害看護(Gakken) ・必要時資料配布

【授業評価】 授業終了後記載

分 野	専門分野	科目名	看護研究演習
		単位・時間数	1 単位 30 時間
		開講学年・時期	3 年生 5 月～翌 2 月
授業のねらい・目標			
看護理論の学習と卒業論文作成を通して、互いの学びを共有し、自己の看護観を培うことができる			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	卒業論文	卒業論文作成にむけてのオリエンテーション 看護理論	講義
2	看護理論	看護理論の理解	講義
3	看護理論	看護理論学習の発表	発表
4	看護理論	看護理論学習の発表 卒論発表にむけて	発表
5	研究発表の聴講	令和 5 年度室蘭支部看護研究発表会 聴講	発表聴講
6	論文校正	卒業論文集録作成に向け、論文校正を行う	講義・校正
7	論文発表	各会場での論文発表と聴講	発表
8	1 会場 4 人発表 2 会場で開催 発表時間 一人 20 分程度	各会場での論文発表と聴講	発表
9		各会場での論文発表と聴講	発表
10		各会場での論文発表と聴講	発表
11		各会場での論文発表と聴講	発表
12		各会場での論文発表と聴講	発表
13		各会場での論文発表と聴講(全体会)	発表(2 年生聴講)
14		各会場での論文発表と聴講	発表
15		各会場での論文発表と聴講(全体会)	発表(3 年生のみ)

【成績評価の方法】 論文評価 70 点 看護理論レポート評価 30 点

【テキスト・参考文献など】 黒田裕子他: ケースを通してやさしく学ぶ看護理論, 改訂 4 版, 2016.

【受講者へ要望、留意事項等】 論文指導は計画的に指導を受けること

論文は A4 用紙 2 枚

論文提出締め切りは 11 月中の予定(詳細は後日提示)

分 野	専門分野	科目名	地域・在宅看護演習
		単位・時間数	2 単位 30 時間
		開講学年・時期	3 年生 4 月～5 月
授業のねらい・目標			
地域で生活する療養者と家族の持つ健康問題の事例を用い、在宅での看護過程の展開を学ぶ 事例を基に療養者と家族の生活背景を踏まえ、アセスメントし看護上の課題を見出すことができる 居宅介護支援事業所の活動、在宅ケアセンターの活動、訪問看護ステーションの活動、 地域包括支援センターの活動を学ぶ			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	看護過程	在宅看護過程	講義・個人学習
2	看護過程の作成	1)情報収集2)アセスメント3)看護計画の立案	個人学習グループワーク
3	看護過程の作成	1)情報収集2)アセスメント3)看護計画の立案	個人学習グループワーク
4	看護過程の作成	1)情報収集2)アセスメント3)看護計画の立案	発表
5	看護過程の作成	1)情報収集2)アセスメント3)看護計画の立案	発表
6	介護予防	健康講座・介護予防教室の企画	講義・個人学習
7	介護予防	健康講座・介護予防教室の企画	グループワーク
8	介護予防	健康講座・介護予防教室の企画	グループワーク
9	介護予防	健康講座・介護予防教室の企画	発表
10	介護予防	健康講座・介護予防教室の企画	発表
11	居宅介護事業所の役割	居宅介護支援事業所の活動 (平鍋)	講義
12	入退院支援室の活動	入退院支援室の活動 (伊藤)	講義
13	訪問看護ステーションの活動	訪問看護ステーションの活動 (鈴木)	講義
14	地域包括支援センターの活動	地域包括支援センターの活動 (井脇)	講義
15	試験	筆記試験	

【成績評価の方法】

100 点(看護過程 20 点、介護予防教室 10 点、筆記試験 70 点)

【テキスト・参考文献など】 資料

【受講者へ要望、留意事項等】 学生同士の報告・連絡・相談

分 野	専門分野	科目名	小児看護演習
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	3 年生 4 月～5 月
<授業のねらい・目標> 小児看護領域における看護の役割についての理解を深め、健康状態に応じた看護を実践するための基礎的看護実践能力（知識・技術・態度）を修得することをねらいとする。 目標：1. 小児看護における、安全で安心な看護技術の方法が理解できる。 2. 事例を通して、小児や家族の特徴を考慮したアセスメントや援助計画を立案できる。			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法
1	ガイダンス 看護技術演習	ガイダンス 小児看護技術① フィジカルアセスメント (バイタルサイン測定、身体計測、生理機能検査、画像検査)	講義 演習 (実習室)
2	看護技術演習	小児看護技術② 検査・処置時の介助と看護、検体採取 (採尿、採便、採血、骨髓穿刺、腰椎穿刺) 与薬 (経口与薬、点耳、点眼、点鼻、坐薬、注射)	講義 演習 (実習室)
3	看護技術演習	小児看護技術③ 呼吸症状の緩和 (口鼻腔・口腔・咽頭内吸引、気管内吸引、酸素療法、吸入療法) 清潔 (清潔の援助、寝衣交換、輸液管理、抑制) 安全 (日常生活場面で起こる事故と予防)	講義 演習 (実習室)
4	看護技術演習	小児看護技術④ 看護技術援助の実際 援助計画の立案	講義 グループワーク
5	看護過程演習	看護過程 ・事例を通して情報整理・アセスメント	演習 (個人ワーク)
6	看護過程演習	看護過程 ・事例を通して情報整理・アセスメント	演習 (個人ワーク)
7	看護過程演習	看護過程 ・事例を通して情報整理・アセスメント まとめ (国家試験)	演習 (個人ワーク)
8	試験	試験 (45 分)	

【成績評価の方法】

本間 (個人ワークの提出物 10 点、筆記試験 40 点)

田邊 (筆記試験 50 点)

【テキスト・参考文献など】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院

【受講者へ要望、留意事項等】

授業はテキスト・資料を持参すること。

実習室での演習はユニフォーム着用時の身だしなみチェックリストに沿ってチェックする。

分 野	基礎	専門基礎	専門	科目名	母性看護演習
				単位・時間数	1 単位 15 時間
				開講学年・時期	3 年生 4 月～5 月

授業のねらい・目標

妊娠・分娩・産褥各期にある対象と新生児の看護を行うための技術を身につける。

授業計画

回	授業内容	提出物	備考	担当
1	妊婦への看護技術：妊婦のフィジカルアセスメント トレオボルド触診法、児心音聴取（トラウベ法）	事前課題 1	実習室・実習着	中山・山下
2	褥婦の看護技術：褥婦のヘルスアセスメント、子宮復古のアセスメントと子宮底の輪状マッサージ、悪露のアセスメントとケア	事前課題 2	実習室・T シャツ・短パン・下ジャージ	中山・山下
3	新生児の看護技術①：アプガールスコア採点、NCPR ルーチンケア（皮膚乾燥・気道開通）点眼、	事前課題 3	実習室・実習着 ナースウオッチ	中山・山下
4	新生児の看護技術②新生児のバイタルサイン測定、	事前課題 4	実習室・実習着・時計・聴診器	中山・山下
5	新生児の看護技術③ 全身観察	事前課題 5	実習室・実習着・	山下・中山
6・7	新生児の看護技術④沐浴、おむつ交換、寝衣交換	事前課題 6	実習室 2 実習着 ハンカチ	山下・中山
8	筆記試験（45 分）			

【成績評価の方法】 筆記試験 65 点 + 授業参加態度 35 点 100 点満点

授業態度の視点	良い	不足がある	努力が必要
身だしなみが整っている（授業ごとに評価する 1 点×7 7 点） （服装、髪型・髪色、爪、名札等）	1 点 良い	0 点 1 つ不足、又は欠席	
積極的な授業態度（授業ごとに評価する 3 点×7 21 点） （授業に関係のない行動・私語・不適切な言葉使い・授業教材の不適切な取り扱いなどがあると教員が判断した場合は不足）	3 点 全て良い	0 点 一つ不足、又は欠席	
課題提出（事前課題・学習シート・授業必要物品など）	7 点 全て良い	4 点 1～2 つ不足	0 点 3 つ以上の不足

【テキスト・参考文献など】

メディカ出版 ： ナーシング・グラフィカ母性看護学②③（母性看護技術）

メディックメディア： 病気が見える voi.10 産科 第 4 版

1.授業を受ける上での注意や留意点

- ・ **授業前に必ず、事前課題に取り組み期日までに提出する。（評価点含む）**
- ・ **授業後は学習シートを記入し、授業への自己評価を行う。（授業後 1 7 時まで提出する）（評価点含む）**
- ・ 看護者としての知識と態度を学ぶ場であるため、実習に準じた身なり（服装、髪型・髪色、爪、化粧）態度で臨む。適切な状態が整っていない場合は上記評価をする。（評価点含む）

2.事前課題 1～5： **授業当日、朝 9：00（基本）までに BOX に提出すること。（評価点含む）**

- ・下記のテキストを参考に授業で使えるよう、イラストや絵を交えてわかりやすくまとめる。
(枚数を多くするより、テキスト内容を端的に工夫してまとめる)
- ・余白を多くとり、授業での説明内容を書き込めるようにする。
※絵や図をコピーしただけの課題提出や、テキストのスキャンのみの課題提出は認めない。

- ・事前課題 1：①指定用紙 1 記載 (テキスト③P18～24 参照)
②メディカ AR 動画視聴 (レオポルド触診法) テキスト③P24
- ・事前課題 2：①褥婦へのヘルスアセスメント・子宮復古の援助 (テキスト③P129～143) を参考に
事例課題に取り組む A4 サイズ程度にまとめる
- ・事前課題 3：①アプガールスコアの目的と実施方法 (テキスト③P174、②P310～312 参照)
②出生直後の皮膚乾燥 (テキスト③P179～181、②P312 参照)
③出生直後の気道開通 (テキスト②P312 参照)
- ・事前課題 4：指定プリント①新生児のバイタルサイン測定 (テキスト③P186～191、テキスト②P302 参照)
- ・事前課題 5：指定プリント①新生児の全身観察 (テキスト③P192～194 参照)
- ・事前課題 6：①新生児の衣服の着脱・おむつ交換・抱き方と寝かせ方 (テキスト③P195～205 参照)
指定プリント②沐浴 (テキスト③P206～222 参照)

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	精神看護演習
		単位・時間数	1単位 30 時間
		開講学年・時期	3年生 4 月～5月

授業のねらい・目標

1. 精神に障害をもつ対象の看護援助の展開を理解する
2. 医療における患者の権利や精神障害者の権利擁護について理解する
3. 精神障害をもつ対象の地域における生活支援を理解する

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	看護援助の展開	精神保健福祉法と医療 看護の倫理と人権擁護 精神科看護における対象理解	講義 課題1提出(登校初日)
2		精神科看護のあり方について ライフヒストリー統合失調症 大石洋一さんの場合	DVD視聴 課題2提出
3		情報の整理	個人ワーク
4		情報の整理	個人ワーク
5		情報整理	個人ワーク
6		アセスメント	個人ワーク
7		アセスメント	個人ワーク
8		アセスメント、看護問題抽出	個人ワーク
9		看護上問題振り返り、ロールプレイングの担当決定 看護目標、援助方法検討	講義 グループワーク 課題3提出
10		ロールプレイングの準備(シナリオ作成)	小テスト グループワーク
11		ロールプレイングの準備(シナリオ作成)	グループワーク
12		ロールプレイングの準備(シナリオ作成)	グループワーク グループワーク提出
13		ロールプレイング(看護問題への支援)	発表(グループごと)
14		ロールプレイング(看護問題への支援)	発表(グループごと)
15		精神科リハビリテーション 地域における生活支援	講義 課題4提出

【成績評価の方法】 課題1～4(学習の取り組み状況含む) 80 点 小テスト 20 点

【テキスト・参考文献など】 メディカ出版 ①情緒発達と精神看護の基本 ②精神障害と看護の実践
精神看護学 学生—患者のストーリーで綴る実習展開(医歯薬出版)

【授業評価】 授業終了後記載

分 野	基礎 専門基礎 専門	科目名	臨床判断演習
		単位・時間数	1 単位 15 時間
		開講学年・時期	3 年生 4 月～5 月
授業のねらい・目標			
臨床判断のプロセスとアセスメントに役立つ視点を学ぶ			
臨床での看護実践につながる臨床判断の基礎的能力を身につける			

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	臨床判断のプロセス	臨床判断のプロセス 課題学習の説明	講義（実習室）
2		事例による課題学習	グループワーク （実習室）
3	臨床判断演習①	演習の説明 事例紹介	講義
4		事例による実践演習 ①	演習
5		事例による実践演習 ①	演習
6	臨床判断演習②	事例による実践演習 ②	演習
7		事例による実践演習 ②	演習
8	まとめ（1H）	事例の振り返り・まとめ	グループワーク・発表

【成績評価の方法】

課題評価：30 点

演習評価：60 点（①30 点、②30 点）

まとめレポート評価：10 点

【テキスト・参考文献など】

資料を適宜用いる

【授業評価】

全授業終了後記載

分 野	基礎	専門基礎	専門	科目名	統合技術演習Ⅲ
				単位・時間数	1 単位 30 時間
				開講学年・時期	3 年生 4 月～12 月

授業のねらい・目標
既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状況に応じた看護を実践するための基礎的能力を身につける。
医療システムの中の危険要因を理解し、事故防止のための知識・方法を理解する。
状況に応じた看護業務遂行のための対策を考えイメージ化できる。

授業計画

回	テーマ	授業内容	授業方法・備考
1	医療安全演習	授業計画について リスク感性を磨く 危険予知トレーニング	講義 演習
2		危険予知トレーニング 患者確認 カテテル管理 輸液ポンプ 与薬他	演習
3	看護業務マネジメント演習	複数患者受け持ちの場合の業務内容 と業務の組み立て方 ①	演習(グループワーク)
4		同上 ②	演習(グループワーク)
5		同上 ③	演習(グループワーク)
6		発表・意見交換 まとめ	演習
7	状況を考慮した対応について学ぶ	演習の課題提示 多重課題事例 視聴	演習(グループワーク)
8		事例・場面の分析と行動の取り方 シナリオ作成・動きの練習	演習(グループワーク)
9		ロールプレイング 質疑応答 講評	演習
10		ロールプレイング 質疑応答 講評	演習
11	日常生活援助技術演習	複数の看護技術演習 ①	演習
12		複数の看護技術演習 ①	演習
13		複数の看護技術演習 ②	演習
14		複数の看護技術演習 ②	演習
15	まとめ	全体の学びの発表	グループワーク 発表

【成績評価の方法】

レポート点、演習課題の提出・参加状況、看護技術で評価します

【テキスト・参考文献など】

- ・ 資料を適宜用いる

【授業評価】

全授業終了後記載

分 野	専門分野	科目名	地域・在宅看護実習Ⅱ
		単位・時間数	2 単位 90 時間
		開講学年	3 年生
授業のねらい・目標 実習目的 地域および在宅で生活している対象者とその家族に対して、対象と家族の状況に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。また、地域包括ケアシステムと関連職種との連携・協働について学び、在宅看護の機能と役割を理解する 実習目標 1. 家族を単位とした対象の生活環境、多様性のある背景を理解する 2. 在宅における日常生活援助の実際を知り、対象の特性に応じた援助を考える 3. 在宅療養者を支援する社会資源を知り、多職種との連携の意義を理解する 4. 地域の保健医療福祉分野で活躍する人々の活動の実際を理解する 5. 地域包括支援センターの活動の実際から看護の役割・機能を理解する 6. 地域で生活する人々の介護予防を考える 7. 通所介護を利用している人々の実際を知る			

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法 (詳細は実習要項を参照のこと) 【実習準備・まとめ】 (12 時間) 【訪問看護ステーション】 5 日間(40 時間) ①病棟オリエンテーション後、同行訪問者の情報収集をする。 ②同行訪問時には、看護師と一緒に看護ケアを実施する。 ③毎日カンファレンスを行う。 【居宅介護支援事業所】 1 日間(8 時間) ①職員と共に行動し、看護の役割を考える。 ②カンファレンスを行い学びを共有する。 【地域包括支援センター】 2 日間(15 時間) ①地域の健康教室に参加し、介護予防講座を企画紹介する。 ②職員と共に行動し、地域で生活している人の実際から地域包括支援センターの役割を考える。 ③2 日目に事例を用いてカンファレンス実施する。 【通所介護】 2 日間(15 時間) ①利用者、職員と共に行動する。 ②通所介護を利用している人々とコミュニケーションを図る。 ③学生企画のレクリエーションを実施。 ④実習2日目にカンファレンスを行う。	実習

【成績評価の方法】レポート、療養者・家族の理解、学生企画の介護予防教室、訪問時マナー、カンファレンスでの発表実習記録、情意領域、記録、報告など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【教科書等】教科書:使用しない 参考文献:適宜、指示する

【受講者へ要望、留意事項等】自己の課題、実習記録((訪問看護)行動計画・訪問看護実習記録、(地域包括支援センター)(居宅介護支援事業所)関連学習・実習のまとめ、(通所介護)関連学習・実習のまとめ)の作成ならびに事前学習・関連学習を行ってください。

分 野	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習Ⅳ
		単位・時間数	2 単位 90 時間
		開講学年	3 年生 6～7 月 2～3 名
授業のねらい・目標			
実習目的 生活調整の支援が必要な患者の看護を学ぶ。			
実習目標 1. 生活調整の必要な患者を身体的・精神的・社会的な側面から理解する。 2. 患者の疾病や治療、症状に対する気持ちを理解する。 3. 生活調整の必要な患者がその人らしく生の援助ができる。 4. 患者、家族と人間関係を成立させる。 5. 看護チームの一員として行動する。			

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 3 年次 5 月～11 月 1. 実習場及びグループ編成 日鋼記念病院、3 名～4 名でのグループ編成 2. 実習の進め方 1) 学生 1 名に対し受持ち患者 1 名決め、看護過程を展開 ＊受持ち患者は生活調整が必要な患者が望ましい 2) 本実習は、看護チームメンバーとの連携、総合保健医療チームメンバーとの連携について学びが深まるよう行動する 3) 病院から住み慣れた地域での生活を支援するための看護の継続性について意識できるように、退院支援を行っている場面(リハビリカンファレンス、退院支援カンファレンス)を通して学びを深める 4) 看護過程: ① 患者に関する情報収集をする。 ・身体に関する情報・飲食・排泄・睡眠と休息・清潔・活動と体位・その他 ② 主観的情報と客観的情報に整理する ③ 情報の意味を考える(アセスメント) ④ 関連図を用いて全体像を捉え、看護チームとして患者の看護問題を明らかにする(患者の日常生活・病態からの看護問題が捉えられる) ⑤ 現在患者に実施している標準看護計画をもとに個別性を加えた具体的看護計画を追加、立案していく(看護チームで立案し実施している看護計画を示し、学生自ら実施可能な具体策を加えていく) ⑥ 援助を実施・評価する(実施した内容を SOAP で記載し、評価) ⑦ 看護計画を見直し、修正等をしてしながら看護実践をしていく	実習

【成績評価の方法】レポート、基礎知識・情報収集・アセスメント・優先順位を考えた看護問題の明確化・個別性のある援助の実践と評価 看護チームメンバーの役割認識、人間関係・コミュニケーション、実習記録・達成度・情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【教科書等】教科書: 使用しない 参考文献: 適宜、指示する

【受講者へ要望、留意事項等】自己の課題と目標を設定し、実習記録(行動計画 受持患者の基本情報(様式1) 受持患者の情報用紙(様式2) 全体像(様式3) 看護計画(様式4) 一週間の振り返り(様式5))の作成ならびに事前学習・関連学習を行ってください。

分 野	専門分野	科目名	老年支援実習
		単位・時間数	1 単位 45 時間
		開講学年・時期	3 年生 6 月～10 月

授業のねらい目標：

目 標

介護老人保健施設における利用者の生活状況を知り、看護の役割と多職種連携を学ぶ。

個別行動目標

1. 施設の目的、利用条件、設備、構造、サービス内容を知る。
2. 施設における利用者の生活状況を知る。
3. 介護老人保健施設のリハビリテーション、レクリエーションの実際を知りその意義を理解することができる
4. 介護老人保健施設における看護の役割を理解する。
 - 1) 利用者の生活リズムを整える援助の実際を知る。
 - 2) 利用者の有する能力に応じて行われている援助の意味を考えることができる。
 - 3) 利用者の背景を知り今後の経過を予測した援助の必要性を述べることができる。
 - 4) 高齢者の意思を尊重した支援について考えることができる。
5. 入所者の目標達成に向けた看護職と多職種の連携の必要性について理解することができる。

授業計画

授業内容	方法
実習方法 1. 実習場所及び実習時間 実習場所：老人保健施設母恋 実習時間：学内全体オリエンテーション 2 時間 実習開始前オリエンテーション 4 時間 老人保健施設母恋 10 時間×3 日間 (30 時間) 最終日まとめ、カンファレンス 9 時間 2. グループ編成 1) 老人保健施設実習は 1 グループ 5～6 名で行う。 2) グループ編成は別紙ローテーション表を配布する。 3. 実習内容 1) 老人保健施設母恋の 2 階または、4 階と 1 階デイケアで実習をする。 2) 利用者とのコミュニケーション、生活状況の見学を行う。 3) 日常生活援助やレクリエーション、クラブ活動、機能訓練（リハビリテーション）の見学・参加をする。 4) 利用者のケア計画を見て、看護師や多職種の援助を実践している様子を見学する。 5) デイケア利用者の送迎の状況を見学する。 6) 最終日にカンファレンスを実施し、学びの共有を行う	実習

成績評価の方法：学習到達度、情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

教科書；使用なし 参考文献適宜支持する

受講者への要望：自己の課題、実習記録、事前学習・関連学習を行ってください。

分 野	専門分野	科目名	小児看護学実習
		単位・時間数	2 単位 60 時間
		開講学年	3 年生
授業のねらい・目標			
実習目的 小児及び家族に対し、安全で適切な看護が実践できるための基本的な知識・技術・態度を習得する			
実習目標 1. 成長発達段階や家族との関係から、小児の個別性を理解できる 2. 小児の発達段階・健康障害に応じた生活の援助ができる 3. 小児を 1 人の個として尊重した関わりができる			

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 【実習準備・まとめ】(25 時間) 【病棟・NICU】1 日間(8 時間) ① 病棟オリエンテーションを受け、受持ち患児 の情報収集をする ② 援助計画に基づいた援助を行う ③ カンファレンスの実施による学びの共有 【外来実習】1 日間(5 時間) ① 1 日目は問診、診療の補助の見学・実施をする。 【保育所実習】3 日間(18 時間) ① オリエンテーションを受け各クラスにわかれる 保育士につき子どもとの関わりを学ぶ ②カンファレンスの実施による学びの共有 【乳幼児健診実習】1 日間(4 時間) ① 室蘭市保健センターにて上記健診を見学 ② 母子 1 組に 2 名の学生がついて計測・指導を見学 ③ 保健師のカンファレンスを見学し、地域の子育てサポート体制について学ぶ *実習の際に対象者が不在の場合、学内での DVD 視聴や事例を用いた看護過程の展開、シミュレーション人形による小児看護技術の体験を実施する	実習

【成績評価の方法】レポート、看護実践、アセスメント、評価、記録と報告、情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【教科書等】教科書:使用しない 参考文献:適宜、指示する

【受講者へ要望、留意事項等】実習記録(<病棟・外来>学びのレポート

<保育所> 日々の記録、まとめのレポート<乳幼児健診> 検診をとしての学びレポートの記載
事前学習・関連学習を行ってください。

分 野	専門分野	科目名	母性看護学実習
		単位・時間数	2 単位 60 時間
		開講学年・時期	3 年生 6 月～10 月
授業のねらい・目標 実習目的 周産期における母子の特性を理解し、新しく家族を迎える人々に対しての看護を実践できる基礎的能力を養う 実習目標 1. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期の経過を理解し、各期にある対象の健康の維持・増進に視点をおいた看護を考える 2. 母子と新しい家族を迎える人々に対しての看護を考える 3. 生命の誕生を通して、命の尊厳や母性について考える 4. 母子の生活を継続して援助するための母子保健医療チームにおける看護師の役割を理解する			

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法（詳細は実習要項を参照のこと） 【実習準備・まとめ】（2 時間） 【学内】（42 時間） ①母児事例、DVD、ロールプレイを組み合わせ、妊娠・出産・育児への看護を学ぶ 【病棟実習（産褥期・新生児）】（8 時間） ①妊娠期の看護の実際について説明を受け、妊娠期に必要な看護を学ぶ ②産褥期や新生児期の看護の実際について説明を受け、母子に必要な援助を学ぶ ③安心して出産に望むための看護について学ぶ ・臨床における母性看護の実際について説明を受ける ・学内実習と臨床実践を結びつける機会とする 【地域の保健活動】（8 時間） ①地域で生活する妊婦や子育て期の母子と家族の現状を知る ②地域における妊娠期から子育て期の母子支援体制を知る ③産前・産後の母子支援の実際を学ぶ	実習

【成績評価の方法】レポート、情報収集・アセスメント、看護技術、実習記録、カンファレンスでの発表、情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【教科書等】教科書：使用しない 参考文献：適宜、指示する

【受講者へ要望、留意事項等】自己の課題、実習記録（＜外来＞妊娠期の学び 1 か月健診の学び、＜病棟＞産褥期・新生児期アセスメント記録、産褥期・新生児期の学び、分娩の学び）の作成
＜地域の保健活動＞学びのレポート作成、ならびに事前学習・関連学習を行ってください。

分 野	専門分野	科目名	精神看護学実習
		単位・時間数	2 単位 60 時間
		開講学年	3 年生
授業のねらい・目標			
実習目的	精神障害のある対象への理解を深め、1 人の人間として尊重する態度を身につけ、健康障害に応じた看護が実践できる基礎能力を養う		
実習目標	1. 患者の生活状況を観察し、精神障害のある患者の特徴を理解する 2. 患者と看護師の相互関係を成立させるためのコミュニケーションの方法を理解する 3. 治療的環境の意味を理解し、看護師の役割を理解する 4. 精神科リハビリテーションの実際を体験し、精神障害に応じた看護を理解する 5. 地域生活支援に活用できる社会資源を知ることができる 6. 認知症高齢者との関わりを通して、 相手を尊重した関わりと生活支援のあり方を考える		

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 病棟実習及び精神科デイケア:実習場 三愛病院 【実習準備・まとめ】(12 時間) 【精神科病棟】6 日間(48 時間) ① 受持ち患者は決めずに、複数の患者と接する。 ② 病棟スケジュールに沿って行動計画を立て行動する。 ③ 臨床指導者、看護師とともに行動し、一緒に看護ケアを実施する。 ④ 作業療法、音楽療法、レクリエーション療法は臨床指導者に調整をとり参加する。 ⑤ 学生企画のレクリエーションを実施する。 ⑥ 関わりをもった患者 1 名の情報収集を行い、患者の特徴に合わせた援助の方向性を考える。 ⑦ デイケアの利用者と活動を共にする。 ⑧ 複数の利用者とコミュニケーションを図る。	実習

【成績評価の方法】レポート、対象の理解と看護援助、実習記録、学習の到達度、カンファレンスでの発表、情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【教科書等】教科書:使用しない 参考文献:適宜、指示する

【受講者へ要望、留意事項等】自己の課題、実習記録(行動計画、一日の振り返り)の作成ならびに事前学習・関連学習を行ってください。

分 野	専門分野	科目名	緩和ケア実習
		単位・時間数	1 単位 45 時間
		開講学年	3 年生
授業のねらい・目標			
実習目的 終末期にある患者を理解し、尊厳をもってその人らしく生活するための 看護援助と役割を知る			
実習目標 1. 患者の苦痛に対する看護援助を記述できる 2. 家族への支援を記述することができる 3. 患者とのかかわりから人間の生と死、自分の生と死を考えることができる			

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 実習場所 日鋼記念病院 緩和ケア病棟(病院内病棟型) 【実習準備・まとめ】(7 時間) 【緩和ケア病棟】4日間(38 時間) ① 病棟オリエンテーションを受ける ② 病棟週間スケジュールに沿って行動計画を立てる。 ③ 夜勤者から引継ぎを聞く ④ 臨床指導者と行動計画について調整した後、担当看護師とともに行動し、一緒に看護ケアを実施する ⑤ 患者の苦痛を考えながら、援助方法の根拠を考える ⑥ 会話や生活援助を通して、患者・家族の身体的・精神的状態を知る ⑦ 看取りや死後のケアの際には、実習指導者またはスタッフと調整をとり、ケアに参加する(看取りの場面の実際と家族への配慮) ⑧ チームカンファレンスに参加する ⑨ ボランティア活動(音楽療法、お茶会)に参加する	実習

【成績評価の方法】レポート、対象の理解と看護援助、実習記録、学習の到達度、カンファレンスでの発表、情意領域など実習評価項目に沿った評価による総合評価

【教科書等】教科書:使用しない 参考文献:適宜、指示する

【受講者へ要望、留意事項等】自己の課題、実習記録(行動計画、一日の振り返り)の作成ならびに事前学習・関連学習を行ってください。

分 野	専門分野	科目名	総合実習
		単位・時間数	2 単位 90 時間
		開講学年	3 年生
授業のねらい・目標			
実習目的	これまでに学習した知識・技術・態度を統合し、看護実践能力を養う		
実習目標	1. 看護における管理の基本的な考え方と看護管理の実際を学ぶ。 2. 看護業務を安全に遂行するための役割と責任を認識する 3. 看護チームの一員として看護師の役割と業務を理解し、援助の優先 順位の考え方と時間管理の必要性を理解する 4. 夜間帯の患者の生活の様子と看護活動の実際を理解する		

授業計画

授業の内容	授業方法
実習方法(詳細は実習要項を参照のこと) 実習場所:日鋼記念病院 【手術部・ICU/CCU】各2日:4日間(28時間) 手術部・ICUの看護の実際を通して周手術期看護・急性期看護の役割を学ぶ ・手術部・ICUでの看護の実際を見学体験する ・手術部・ICU/CCU の環境と特徴、看護の役割・感染防止対策 ・手術部・ICU/CCU における安全対策 【病棟管理実習】1日(6時間) ・看護課長、看護主任業務について説明を受ける ・看護課長、看護主任と行動を共にして業務の実際を知る 【病棟実習】7日(56時間) ・学生2名で4人部屋1室を担当する ・実習当日は病室担当の看護師と行動を共にする ・これまで未経験・到達目標未達成の看護技術を調整しながら実施する ・リーダーと行動を共にして業務の実際を知る ・1回ずつ夜間実習を行う	実習

【成績評価の方法】実習記録、学習の到達度、カンファレンスでの発表、情意領域、記録、報告など

実習評価項目に沿った評価による総合評価

【教科書等】教科書:使用しない 参考文献:適宜、指示する

【受講者へ要望、留意事項等】実習記録の作成ならびに事前学習・関連学習を行ってください。